

ト同シク軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ爲ス可キモノナリ

第二百二十七條

證人ハ他ノ証人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ

訊問ス可シ但事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ證

人ト他ノ証人又ハ被告人ト對質セシムルコトヲ得

(解釋)本條ハ證人ヲ訊問スル方法ヲ定メタルモノナリ

證人ハ他ノ証人及ヒ被告人ト各別ニ訊問ヲ爲ス所以ハ豫審ハ秘密

ヲ主トスルモノナルヲ若シ一度ニ數人ヲ訊問スルトキハ知ラス識

ラス他ノ証人ノ言ニ雷同シテ眞實ノ供述ヲ爲サ、ルコトアルヘシ

或ハ又被告人ノ勢力ヲ懼レテ供述ノ眞正ヲ失フノ恐レアリ其他種

々ノ弊害ヲ生スルコトアルヲ以テ法律ハ各別ニ訊問スルコト、定

メタリ然レトモ事實ヲ發見スルニ必要ヲ感スルトキハ證人ト證人

又ハ被告人ト對質セシムルヲ得ヘキナリ

第二百二十八條

豫審判事ハ證人ノ供述ヲ確實ナラシムル

爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行  
スルコトヲ得

若シ證人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第百十八條ノ  
規定ニ從フ

(解釋)本條ハ證人ヲ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ定メタル  
モノナリ

證人ノ供述被告人ノ自由ナルモノハ他ノ證據ト結合一致スルニ於

テハ其信憑力ヲ増スモノナリ故ニ豫審判事ハ證人ノ供述シタル事

實ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリト思料シタルトキハ犯所又ハ其

他証憑物件ノ存在スル場所ニ同行スルコトヲ得ルナリ

第二項右ノ場合ニ於テ証人若シ同行ヲ肯セサルトキハ第百十八條

ノ規定ニ從ヒ証人呼出ニ應セサルトキト同シク處罰スヘキナリ或

日同行ヲ肯セサルハ宣誓ヲ肯セス又ハ供述ヲ肯セサル場合ニ同シ

ケレハ第二百二十六條ノ規定ニ從フ方穩當ナリト夫レ然リ然レトモ  
宣誓供述ヲ肯セサル所爲ハ直接ニ官命ニ抗シ裁判權ヲ妨グルモノ  
ナレトモ同行ヲ肯セサルモノニ至リテハ矢張り第一百十八條ノ場合  
ニ於ルカ如ク私益ノ爲メ公益ヲ願ミサルノ情實アレハ第一百十八條  
ト同様ニ論スル方至當ナルヘシ

第二百二十九條 第一百條第一百條ノ規定ハ証人ニ付テモ亦  
之ヲ適用ス

(解釋)本條ハ証人聾者啞者及ヒ國語ニ通セサル者ナルトキノ規定ナ  
リ  
証人タルヘキ者聾者啞者及ヒ日本語ニ通セサル者ナルトキハ第百  
條第一百條ノ被告人ニ付テノ規定ヲ適用スルモノニシテ其詳細ハ  
第一百條第一百條ニ於テ解説シタレハ爰ニ贅セス

第三百三十條 皇族証人ナルトキハ豫審判專其所在ニ就キ

訊問ヲ爲ス可シ  
各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ  
其所在地外ニ滞在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問  
ス可シ

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞  
在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

(解釋)本條ハ証人ノ身分ニ因リ一種特別ノ規定ヲ設ケタルモノナリ  
皇族証人ナルトキハ豫審判事ハ之ヲ呼出スコトヲ得ス其所在地ニ  
就テ訊問ヲ爲サ、ルヘカラス是特別ニ皇族ヲ重ンシタルモノナリ  
第二項各大臣ハ天皇陛下ノ輔弼トシテ國家ノ樞務ニ當ルモノナレ  
ハ若シ証人トシテ之ヲ遠隔地ノ裁判所ニ呼出スカ如キコトアラハ  
爲メニ政務ヲ妨グルノ恐レアレハ其官廳ノ所在地ニ於テ訊問シ其  
所在地外ニ在ルトキハ現在地ニ於テ訊問ヲ爲サ、ルヘカラス爰ニ

所在地トアリ故ニ其所在地ナレハ之ヲ裁判所ニ於テ訊問スルモ差支ナキカ如シ唯々本項ハ遠隔地ニ呼出スコトヲ得ストノ意ナルヘシ

第三項貴族院衆議院ノ議員ニ於ルモ其開會期間ハ現行犯罪内乱外患ニ關スル罪ヲ除ク外其院ノ許諾ヲ得ルニアラサレハ之ヲ逮捕スルコトヲ得サルコトハ憲法ノ定ムル處ナリ蓋シ議會ヲシテ終始其職權ヲ全フシ併セテ其獨立ヲ保護センカ爲メ議員ニ一ノ特權ヲ與ヘタルモノナリ然レハ又其議員ヲ證人トシテ遠隔ノ地ノ裁判所ニ呼出スコトヲ許ストキハ爲メニ議會ノ秩序ヲ乱シ議權ヲ妨クルカ如キコトアルヲ以テ其滞在在ノ地ノ裁判所ニ於テ之ヲ訊問セサルヘカテサルモノトセリ

(治罪法ニハ皇族勅任官ニ付規定アリシカ此訴訟法ニハ皇族大臣帝國議會議員ヲ證人トシテ訊問スル特別ノ規定ヲ設ケテレタリ是重

モノナル改正ノ第十六ナリ)

### 第三百三十一條 豫審判事ハ證人ニ其供述ノ相違ナキヤ否

ヤヲ知ラシムル爲メ裁判所書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ

証人ハ其供述ヲ變更増減センコトヲ請求スルヲ得書記ハ其請求アリタルコト及ヒ變更増減ノ條件ヲ調書ニ記載ス可シ

調書ニハ豫審判事書記及ヒ證人共ニ署名捺印ス可シ若シ証人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(解釋)本條ハ証人ニ調書ヲ讀聞カセ及ヒ其調書ヲ作ル方式ヲ定メタルモノナリ

本條ハ第九十五條第九十六條ニ定メタル被告人ニ調書ヲ讀聞カス

ル場合ト毫モ異ル處ナケレハ解説ノ要ナシ

第三百三十二條 豫審判事ハ証人裁判所所在地ニ住セサル

トキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

若シ証人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

(解釋)本條ハ証人訊問囑託ノコトヲ規定セシモノナリ

第一項証人裁判所ノ管轄内ニ在ル時ハ之ヲ其裁判所ニ呼出スルヲ以テ本則トスレトモ若シ其裁判所々在地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得ヘシ是レ日時ヲ費シ費用ヲ要センコトヲ慮リテ斯クハ定メタルモノナリ

第二項証人管轄地内ニ在ルトキハ豫審判事ハ証人所在地ヲ管轄スル豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得ヘシ

是亦前項ノ趣旨ニ外ナラサルモノトス

第三百三十三條 第三百十八條第三百十九條及ヒ第三百二十六條

ニ掲ケタル證人ニ對スル豫審判事ノ權ハ受託判事ニモ屬ス

(解釋)受託判事ニ証人ヲ罰スルノ權ヲ與ヘタルモノナリ

第三百十八條ニ於テ呼出ニ應セサル証人ヲ罰スルコト第三百十九條ノ罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消スコト第三百二十六條証人宣誓ヲ肯セズ又ハ供述ヲ肯セサルトキニ之ヲ罰スルコトニ付豫審判事ニ與ヘタル權限ハ囑託ヲ受ケタル判事ニモ屬スルモノトセリ

第三百三十四條 證人ハ出頭ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得

トヲ得

(解釋)本條ハ証人旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタリ  
證人ノ旅費日當等ノ金高ハ載セテ刑法附則ニ在リ

### 第七節 鑑定

(解釋)鑑定トハ學術又ハ技藝ニ熟達シタル人ノ意見ヲ云フ凡テ証言ハ事實ヲ陳述セサルヘカラサルヲ以テ人人ノ意見思想ノ如キハ証據ト爲スコト能ハサルモノナレトモ彼ノ學術技藝ノ事ニ關スル鑑定人ノ意見ニ至リテハ法律上特リ効力アルモノナリ而シテ鑑定ト証言トノ異ル處ハ証言ハ本來過去ノ事實ヲ陳スルモノナンハ眼中唯一ノ事實アルノミ鑑定ハ之ニ反シテ現ニ存在スル或ル事實ニ依リテ以テ新クナル現在ノ事柄ヲ証明スルモノナリ故ニ鑑定人ハ曾テ見聞シタル事實ヲ陳スルノミニ止マラス自己ノ經驗ト學術ノ智識ニヨリ論局ヲ決スルモノトス但鑑定人ノ意見ハ學術技藝ノ範圍ニ止マリ決シテ他事ニ及ボスコトヲ得サルハ猶ホ証人ノ証言ハ見聞セル事實ノ外ニ出ツルヲ許サル、カ如シ

### 第三百三十五條 豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分

明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ  
 鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又ハ既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

(解釋)本條ハ鑑定ノコトヲ規定シタルモノナリ

犯罪ノ性質ハ謀故殺毒殺等ヲ云ヒ方法トハ刀劍ヲ以テ殺シタルカ毒物ヲ用キタルカ等ノ事ヲ云フ又犯罪ノ結果トハ例ヘハ被告人ノ負傷ハ犯罪ニ因テ生シタルヤ被害者ノ死シタルハ犯罪ニ原由スルヤ否ヤ等ヲ云フモノナリ此等ノ事ヲ分明ナラシメンカ爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ醫師化學家等ヲシテ鑑定セシム若シ一名ノ鑑定ニテハ信ヲ措クニ足ラスト認メタル場合ニ於テハ二名以上ノ

者ニ命シテ鑑定ヲ爲サシムヘキナリ

又鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死體ヲ解剖シ又ハ既ニ埋葬シ

タル死體ヲ發掘シテ解剖シ若クハ檢視ヲ命スルコトヲ得ルナリ

(死體解剖發掘等ニ關スルコトハ治罪法ニ見サル處ナリシカ此訴訟

法ニハ右ノ如ク規定セラレタリ是重モナル改正ノ第十七ナリ)

第三百三十六條 鑑定ニ付テハ第三百十五條第三百十八條乃至

第三百二十一條第三百二十三條乃至第三百二十五條及ヒ第百

二十八條ノ規定ヲ準用ス但鑑定人ニ對シテハ勾引狀ヲ

發スルコトヲ得ス

(解釋)本條ハ証人訊問ニ付規定シタル或ル部分ノ規則ハ鑑定人ニモ

適用スヘキコトヲ定メタルモノナリ

第三百十五條ノ證人呼出ノ規則第三百十八條証人呼出ニ應セサルトキ

ノ處罰第三百十九條處罰ノ取消第三百二十條出頭ノ心得第三百二十一條

証人訊問ノ規則第二百二十三條第三百二十四條ノ証人ノ無能力及ヒ(第

百廿五條証言ヲ拒ムコトヲ得ル場合)第二百二十八條証人ヲ犯所其他

ノ場所ニ同行スル規則等ハ鑑定人ニ付テモ準用スヘキモノトセリ

併テ鑑定人ニ對シテハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ス其理由ハ証人ハ

其見聞シタル事ヲ供述スルモノナレハ必ス其人ヲ要スヘキモ鑑定

人ニ在ツテハ學術技藝ニ因テ鑑定セシムルモノナレハ他ニ其人ナ

キニアラサルナリ又學術技藝等ニ因リ鑑定スルハ其人ノ適意ニ出

テサルヘカラス若シ然ラサレハ十分ノ鑑定ヲ爲サシムルヲ得サル

ナリ

第三百三十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ

爲ス可シ其宣誓ハ第二百二十二條ノ式ニ從フ

(解釋)本條ハ鑑定人宣誓ノコトヲ定メタルモノナリ

鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定スヘキコトヲ宣誓ノ場合ニ從フ旨ヲ定

メテレタリ本節ノ初メニ於テ述ヘタル如ク証人ト鑑定人トハ其性質ヲ異ニスルヨリシテ其誓言ニ差アリ即チ第二百二十二條ト本條トニ示スカ如シ是レ一ハ見聞ノ事實ヲ證言シ一ハ或ル事柄ニ付學術技藝ノ智識ヲ以テ意見ヲ述フル差異ヨリ來ルモノナリ

第三百三十八條 鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ

肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第七十九條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル効力ヲ有ス

(解釋)本條ハ鑑定人官命ニ抗拒スル裁判ヲ規定シタルモノナリ  
鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルトキハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第七十九條ニ從ヒ四圓以上四十圓以下ノ範圍ニ於テ罰金ヲ言渡ス可シ本條ノ趣旨ハ第二百二十六條第一項ト同シキヲ以テ別ニ解説ヲ爲サス

第三百二十九條 豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權

ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

(解釋)本條ハ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムル場合ヲ規定シタルモノナリ

豫審判事ハ自己ノ職權又ハ鑑定ノ請求ニ因リ鑑定人ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得此ノ如キコトハ鑑定事件ノ困難ナル場合ニ於テ往々アル處ニシテ若シ鑑定人中ニ於テ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ第四百十條第三項ノ規定ニ依ルモノトス

第四百十條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其手續結果及ヒ鑑定

ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ  
若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ  
鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各

自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ

(解釋)本條ハ鑑定書ヲ作ル規則ヲ定メタルモノナリ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其鑑定ニ着手スル初發ヨリ順次結果ニ及フノ手續順序及ヒ鑑定ニ因リ生シタル結果例ヘハ毒殺事件ナレハ其毒物ハ全ク生命ヲ絶ツ程ノ力ヲ有スルヤ又其毒物ノ爲メニ死シタルヤ等ノ成蹟ヲ詳カニセサルヘカラス爰ニ注意ヲ要ス可キハ鑑定人ノ意見ハ學術技藝ノ範圍ニ止マリ決シテ他事ニ及フヘカテサルモノニ付右ノ例ニ於テ此人體ハ毒物ノ爲メ死シタルモノナリト意見ヲ述フルコトヲ得レトモ此毒物ヲ以テ何某カ此者ヲ殺シタリト陳辨スルコトヲ得ス何トナレハ何某カ毒物ヲ用キテ殺害シタルモノナルヤ否ヤヲ決スルハ豫審判事ノ任ニシテ鑑定人ノ任ニアラサレハナリ又鑑定人ハ鑑定シタル時間等ヲ詳密ニ記載スヘキモノトス

第二項若シ鑑定ニシテ其結果ヲ得サルトキハ推測ヲ以テ多分此ノ如クナルベシト其思料スル處ヲ記載ス可シ

第三項鑑定人數名アリテ互ニ其意見ヲ異ニスルトキハ各自ニ鑑定書ヲ作り又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載スヘシ

第二項第三項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ其信スル處ニ因リテ判斷ヲ下スモノナリ又本條ノ規定ニヨレハ鑑定人タルモノハ其意見ヲ自ラ鑑定書ニ記載セサルヘカラス是レ鑑定人ハ豫審判事ノ知ラサル事ヲ學術技藝ニ因テ鑑定スルモノナレハ本人自ラ作為スルニアラスンバ其事情ヲ書ス能ハサルニ由ルモノニシテ彼ノ見聞ノ事實ヲ供述スル証人トハ大ニ異ル處アレハナリ

第四百十一條 鑑定人ハ旅費日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要

ムルコトヲ得

(解釋)本條ハ鑑定人旅費日當立替金ヲ請求スルコトヲ得ル旨ヲ定メ



タルモノナリ

本條ノ規定ハ第三百三十四條ノ証人旅費日當ヲ要ムル場合ト同様ナリト雖鑑定人ハ藥物其他ノ費用等ヲ立替スル場合アレハ之カ經濟ヲモ要ムルヲ得ヘキコトヲ定メタリ

### 第八節 現行犯ノ豫審

(解釋)本節ハ現行犯ノ豫審ニ付特例ヲ設ケタルモノナリ本來訴訟ノ手續ハ非現行犯ヲ以テ通例トシ現行犯ヲ以テ變例トス其故ハ通常犯罪ハ皆現行犯ナラサルハナシト雖其現行ノ場合ニ際會スルコトハ稀ニシテ多クハ犯時ヲ過キテ之カ捜査ニ着手スルモノナレハ法律ハ最モ多キ場合ヲ常例トシ其稀有ナル場合ヲ變例トセリ現行犯ニ特例ヲ設ケタル所以ハ其罪蹟分明ナルヲ以テ多分ハ無事ヲ罪スルノ恐レナキカ故ナリ併シ時ニ或ハ事實ニ誤リナキヲ保シ難シト雖若シ之ヲ疑フトキハ實ニ際限ナキノミナラス或ハ逃走シ或ハ證

據ヲ湮滅シテ遂ニ罪人ヲシテ法網ヲ免レシムルノ憂ヒナシトセス由之現行犯ハ非現行犯ノ如ク鄭重ナル手續ニ依ラスシテ特ニ簡便法ヲ規定シタルモノナリ

### 第四百二十二條 豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁

判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ノ規定ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ豫審判事ノ請求ヲ待タス豫審ニ着手スル場合ヲ定メタルモノナリ

請求ナケレハ型セストハ裁判ノ原則ナリ故ニ本法第六十七條ニ通常ノ場合ニ於テハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審判事ハ豫審ニ取

掛ルコトヲ得ス此規定ニ背キタルトキハ其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ効ナカル可シトアリ然ルニ本條ハ非常ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ先キニモ解説スル通り犯蹟分明ニシテ被告人ヲ誤ルコトナク且ツ證據物件ノ湮滅ヲ防キ豫審處分ヲ容易ナラシムル等ノ便宜ヨリシテ此例外法ヲ設ケタルモノナリ但シ變例ハ己ムヲ得サルトキニアラサレハ適用スヘカラサルモノナルヲ以テ其事件急速ヲ要セサルカ又ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スル小輕罪又ハ大密院ノ特別權限ニ屬スル皇族ノ犯シタル輕罪等ニ係ルモノハ固ヨリ本條ニ依ルコトヲ得ス然レトモ重罪ノ現行犯ニ在リテハ事重大ニシテ急速ノ處分ヲ要スレハ其事件ノ如何ニ犯人ノ身分ノ何タルニ關シ本條ヲ適用スヘシ是レ本文ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキ云々ト規定セシ所以ナリ

第二項ハ前項ノ場合ニ於テハ豫審判事ハ此第三章ニ定メタル一切ノ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セシモノニテ別ニ解説ノ要ナシ

第四百十三條 前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖

豫審判事檢証調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載ス可シ

豫審判事ハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キモノニ非サル意見アリト雖通常ノ規定ニ從ヒ之ヲ終結ス可シ

(解釋)本條ハ公訴提起ノ變例ト豫審判事ノ獨立ナルコトヲ規定シタルモノナリ

前條ノ場合ニ於テ豫審判事重罪輕罪ノ現行犯ノ豫審ニ取掛リタル

トキハ檢事ノ起訴ナシト雖檢証調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノト看做スナリ其調書ニ現行ノ重罪輕罪ナルコトヲ記載スルハ後日ノ證ト爲サンカ爲メナリ爰ニ云フ輕罪トハ前條地方裁判所ノ管轄權ニ屬スル輕罪ヲ云フナリ

第二項豫審判事前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ速ニ其書類ヲ檢事ニ送致セサルヘカラサルハ早ク通常ノ處分ニ復センコトヲ欲シテナリ若シ此場合ニ於テ檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續スヘキモノニ非ストノ意見アリト雖豫審判事ハ通常ノ規則即チ第六十一條以下ノ規定ニ從ヒ豫審終結ヲ爲スモノナリ是判事ハ一旦公訴ヲ受理シタルトキハ檢事ノ意見如何ニ拘ラス獨立ノ職權ヲ以テ判決ヲ爲スモノナルヲ以テナリ

第四百十四條 地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪

ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス証人及ヒ鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ

(解釋)本條ハ檢事ニ付キ現行犯ノ變例ヲ設ケタルモノナリ

檢事ハ刑事ノ原告官ナルモ第四百十二條ニ於テ説明セシ理由ニヨリ現行犯ニ付テハ變例トシテ豫審判事ノ職務ヲ行ハシムルヲ得ヘシ本條ニ公訴ノコトヲ示サ、ルハ公訴ヲ行フモノカ裁判官ノ職ヲ兼行スル場合ナレハ殊更ニ明記スルノ要ナキヲ以テナリ本條ノ輕罪モ第四百十二條ト同シク區裁判所ノ管轄スル輕罪及ヒ大審院ノ特別權限ニ屬スル皇族ノ犯シタル輕罪ヲ除キタルモノナレトモ第

三百十二條ノ大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續ニヨリ地方裁判所ノ檢事區裁判所ノ檢事ハ別ニ皇族ノ犯シタル輕罪ノ現行犯ニ付キ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ然ルニ本條ハ變例ノ又變例タルモノナレハ廣ク之ヲ適用スルヲ得テ故ニ罰金及ヒ費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得テ又証人鑑定人ニハ宣誓ヲ用ヰスシテ其供述ヲ聽カサルヘカラス

**第四百十五條** 前條ノ場合ニ於テ地方裁判所檢事ハ證據書類ニ意見ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ區裁判所檢事ハ之ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

(解釋)本條ハ檢事現行犯ノ豫審ヲ爲シタル後ノ手續ヲ定メタルモノナリ

檢事前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ證據書類ニ意見ヲ添ヘ速ニ豫審判事ニ送致ノ手續ヲ爲スヘシ是レ法律ハ成ルヘク早ク通常ノ規則

ニ復セシメンコトヲ希望スルカ故ナリ然レトモ地方裁判所檢事ハ輕罪事件ニシテ豫審ヲ求ムルニ及ハス又ハ被告事件罪トナラス若クハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ第四百十九條ノ規定ニヨリ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラサルナリ

本條ニ區裁判所檢事ハ證據書類ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可キコトヲ定メタルハ前條ニ規定シタル犯罪ハ區裁判所ニ於テ管轄權ヲキ輕罪以上ノ事件ニ係ルヲ以テ區裁判所檢事ニ於テハ起訴スヘキ權利ナキカ故ナリ

**第四百十六條** 區裁判所檢事ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ第四百十四條ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得若シ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發シタルトキハ三日內ニ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ區裁判所檢事カ其管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯ニ付テ變例ヲ定メタルモノナリ

區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ハ本來輕易ノ犯罪ナレハ豫審ヲ要セサルモノナリ故ニ豫審判事ニ於テ此事件ニ干與スルノ規定ナシ然レトモ區裁判所檢事ハ之カ現行犯アルコトヲ知り而シテ其事件タル急速ヲ要スルトキハ第四百四十四條ノ規定ニ依リ犯所臨檢搜索物件差押身體拘束証人訊問等ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二項前項ノ場合ニ於テ被告人ニ勾留狀ヲ發シタルトキハ三日内ニ起訴ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラズ此三日内トハ勾留狀ヲ發シタルヨリ三日内ヲ云フナルヘシ

第四百十七條 第四百四十四條第四百十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス

司法警察官ハ証憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致シ且被告人ヲ逮捕シタルトキハ共ニ之ヲ送致ス可シ

(解釋)本條ハ司法警察官ニ現行犯ノ假豫審ヲ行ハシムルコトヲ規定セリ

司法警察官第四百四十二條ニ記載スル重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ豫審判事檢事ヨリ先ニ知リタルトキハ第四百四十四條ニ依リ檢事ニ許シタル職務ヲ行フコトヲ得ス第四百十六條ニ記載スル輕罪ヲ區裁判所檢事ヨリ先ニ知リタルトキハ第四百十六條ニ依リ其檢事ノ職務ヲ行フコトヲ得ヘキナリ然レトモ其檢事ノ處分ト異ル處ハ假ニノ文字ナリ假ノ處分ハ俗ニ謂フ間ニ合セノ處分ナレハ豫審判事又檢事ニ於テ仕直シテ始メテ真正ノ處分トナルナリ又司法警察官ハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得ス是レ變例ニハ成ルヘシ重モキ事柄

ニ係ル權限ハ之ヲ與ヘサルノ趣旨ニ外ナラサルヘシ  
第二項ハ處分ヲ終リタル後ノ手續ヲ定メタルモノニシテ別ニ解ク  
コトナシ

第四百十八條 地方裁判所檢事ハ區裁判所檢事又ハ司法

警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ  
請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時内ニ之  
ヲ訊問シ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ手續ヲ爲  
ス可シ

(解釋)本條ハ地方裁判所檢事々件ノ送致ヲ受ケタルトキノ處分方ヲ  
定メタルモノナリ

地方裁判所ノ檢事ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致  
ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘテ豫審判事ニ送致ス

ヘシ又同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時内ニ其被告人ヲ  
訊問シテ勾留狀ヲ發シ又ハ發セスシテ前項ノ書類ト共ニ豫審判事  
ニ送致スヘキナリ本條ニ殊更ニ被告人ヲ訊問スルコトヲ定メタル  
ハ司法警察官ノ假處分ヲ正シ又區裁判所檢事ノ處分ヲ確メンカ爲  
メナリ

第四百十九條 地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ輕

罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタル  
トキハ勾留狀ヲ發シタルト否トニ拘ラス直チニ其裁判  
所ニ訴ヲ爲スコトヲ得

被告事件罪トナラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト  
思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

(解釋)本條ハ豫審ヲ求メサル輕罪又ハ罪トナラサル事件ニ付テノ處  
分方ヲ示シタルモノナリ

地方裁判所検事ハ豫審ヲ要セサル輕罪事件ハ直ニ公判ヲ求ムルコトヲ得ルハ第六十二條第二號ニ定ムル處又被告事件罪ト爲ラス公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルトキ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラサルコトモ第六十四條第二項ニ規定アルヲ以テ本條ニ復タ斯クノ如ク定メタルハ重複スルカ如シ然レトモ第六十二條第六十四條ハ通常ノ起訴ノ手續ヲ定メタルモノニシテ此現行犯ノ豫審ノ場合トハ大ニ其趣ヲ異ニスルノミナラス第四百十五條及ヒ第四百十八條ニ檢事ハ証憑書類ニ意見ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シトアレハ必ス送致セサルヘカラサルカ如キ疑アルヲ以テ之ヲ明瞭ナラシメソカ爲メ特ニ本條ヲ設ケタルモノナリ

(此刑事訴訟法ノ現行犯ノ豫審ハ大ニ治罪法ト異ル處アル是重モノナル改正ノ第十八ナリ)

### 第九章 保釋

(解釋)未決勾留ハ公ケノ正義ヲ維持センカ爲メ國家ノ必要上已ムコトヲ得ス施ス處ノ強制手段ナレトモ本人ノ自由ヲ奪ヒ且ツ其家族ニ對シテ言フヘカラサル困難ヲ與フルカ如キ弊害少ナカラス故ニ法律ハ被告人ヲ拘束スルノ必要ナキ場合ニ於テハ又此弊害ヲ救済スルノ方法トシテ保釋及ヒ責付ノ制ヲ設ケタリ

本條ノ解釋ニ入ルニ先チ左ニ保釋ヲ得ルニ必要ナル條件ヲ示スヘシ

- 一 勾留狀ヲ受ケタル被告人ニ限ルコト
- 二 被告人ノ請求アルコト被告人無能力ナルトキハ法律上ノ代人保釋ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス
- 三 保證ヲ呈出スルコト保證ヲ呈出スヘキモノハ被告本人タルト他人タルトヲ問ハスト雖保証ニ呈出スルコトヲ得ヘキモノハ現金有價証券又ハ裁判所ノ管轄地ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリノ保

証書ニ限ルモノトス

四何時ニテモ呼出ニ應ス可キ証書ヲ呈出スルコト勾留ヲ爲スノ目的ハ犯人逃走罪跡湮滅ヲ防クノ必要ニ出ツルモノニシテ其恐レナキモノハ之ヲ勾留スルノ必要ナケレハ保釋ヲ許スナリ然レトモ固ト被告事件ノ訴訟中ノ者ナレハ呼出ニ應セサルカ如キコトアルニ於テハ保釋ヲ許スヘキモノニアラズ

五保釋ニ就キテ裁判官ノ許可アルコト豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聞キテ保釋ヲ許スヘキモノナリ

又責付ハ其目的性質ハ保釋ト異ル所ナシト雖其手續等ニ付キ差アリ即チ第一責付ハ被告人ノ請求ヲ要セス豫審判事檢事ノ意見ヲ聞き責付スルモノトス第二責付ハ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ保管セシムルモノナルヲ以テ親屬故舊ヨリ何時ニテモ出頭セシムヘキ保証ヲ爲スニ止マリ保証金等ヲモ要セサルモノナリ其他制裁ニ至リ

テモ其方法ニ差異アリ詳シハ各條ニ於テ説明スヘシ

### 第五百十條 豫審判事ハ豫審中勾留狀ヲ受ケタル被告人

ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭ス可キ証書ヲ差出シ且保証ヲ立テシメ保釋ヲ許スコトヲ得

被告人無能力ナルトキハ法律上代理人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得

(釋釋)本條ハ保釋ヲ請求スルコト及ヒ之ヲ許スコトヲ規定シタルモノナリ

第一項ニ檢事ノ意見ヲ聽キ云々トアレトモ唯之ヲ聽ク迄ニシテ其意見ニヨリ保釋ヲ許スヘキモノニアラス第二項ノ無能力トハ幼者等ヲ云ヒ法律上代理人トハ其後見人ヲ云フモノナリ無能力者ハ保釋ノ請求ヲ爲スコトハ敢テ妨ケナシト雖モ無能力者ハ財産ヲ處



分スル權利ナケレハ若シ請求ヲ爲サ、ルトキハ之カ後見人代リテ  
請求スルヲ得ヘキ旨ヲ定メタルモノナリ

第二百五十一條 保證ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許  
ス言渡書ニ記載ス可シ

(解釋)本條ハ保證ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許ス言渡書ニ記  
載ス可キ旨ヲ定メタルモノニシテ別ニ解説ヲ要セス

第二百五十二條 保証ヲ爲スニハ被告人又ハ法律上代理人  
ヨリ金錢若クハ有價証券ヲ差出ス可シ

又裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリ  
金額ニ充ツ可キ保証書ヲ差出スユトヲ得

(解釋)本條ハ保証金ヲ出ス方法ヲ規定シタルモノナリ  
第一項ノ有價証券トハ貯金預所又ハ銀行ノ預証書等ヲ云フ第二項  
ハ其裁判所ノ管内ニ住スル十分ノ資力ヲ有スル者ノ保証書ヲ差出

スモ保証金ト同一ノ効力アル趣ヲ定メタルモノナリ

第二百五十三條 保釋中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二  
十四時前ニ其報告ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ保釋中被告人ヲ呼出ストキノ手續ヲ定メタルモノナリ  
保釋中被告人ヲ呼出スニハ通常被告人ヲ呼出スカ如ク二十四時前  
ニ通知スヘシト雖其呼出ニ付テハ呼出狀ヲ用ユルヲ要セス唯々一  
個ノ通知書ヲ送り出頭スヘキ意ヲ知ラシムレハ可ナリ

第二百五十四條 保釋中被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナク  
シテ出頭セサルトキハ保證金ノ全部又ハ一分ヲ沒收ス  
可シ

(解釋)本條ハ保証ノ効力ヲ示シタルモノナリ  
保釋中被告人ハ呼出ヲ受ケタルトキハ必ス出頭セサル可カラサル  
モノナリ然ルニ其通知ヲ受ケテ正當ノ事由ナク出頭セサルトキハ

先キニ差出シアル保証金ノ全部又ハ其幾部分ヲ没収セラル可シ正當ノ事由トハ疾病若クハ天災事變ニテ出頭スル能ハサル場合等ヲ云フ此没収ナルモノハ刑法上ノ没収ト異ニシテ眞ニ民法上ニ關スルモノニシテ官ニ取上ルト云フニ過キス故ニ時効モ民法ノ時効ニ從ハサルヘカラサルナリ

第百五十五條 保証金ヲ没収スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ

豫審判事其言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ保証金ヲ没収スル方法ヲ定メタルモノナリ  
保証金ヲ没収スルニハ豫審判事之カ言渡ヲ爲シ而シテ其言渡ハ檢事之ヲ執行スルモノトス

第百五十六條 豫審判事保証金ヲ没収シタルトキハ保釋

ノ言渡ヲ取消ス可シ  
又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要ナリトスルト

キハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

(解釋)本條ハ保釋ヲ取消ス場合ヲ定メタルモノナリ  
被告人保釋中背約シテ出頭セサルトキハ保証金ヲ没収ス保証金ヲ没収シタルトキハ其全部ナルト一部ナルトヲ問ハス保釋ノ言渡ヲ取消スモノトス此場合ニ在リテハ更ニ令狀ヲ發スルコトナリ先キニ發シタル勾留狀再ヒ効力ヲ生スルモノナリ  
第二項ハ豫審判事ニ於テ被告人逃走ノ恐レアルカ又ハ呼出ニ應セサルノ恐レアリテ保釋言渡ヲ取消スノ必要ヲ感シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消スヘキコトヲ定メタルモノナリ

第百五十七條 豫審判事保証金ヲ没収シタル後免訴ノ言

渡違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ前ニ没収シタル金額ヲ還付ス可シ

(解釋)本條ハ沒収シタル保証金ヲ還付スル場合ヲ定メタルモノナリ  
 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニアラサレハ勾留狀ヲ發スルコトヲ  
 得サルハ第七十五條ノ定ムル處ナリ又保証金ヲ出シテ保釋ヲ受ク  
 ルハ其拘束ノ猶豫ヲ請フ爲メニシテ身体拘束ハ保証金ヲ出スノ目  
 的物ナリ然ルニ豫審判事訴訟法ノ原則ニ背キ勾留ス可カラサ  
 ル人ヲ勾留シタルトキハ即チ過失官ニ在ルヲ以テ他ノ違約ヲ責ル  
 コトヲ得ス又此場合ニ於テハ保証金ノ目的物タル身体ノ拘束ナキ  
 モノナレハ其結果タル最初ヨリ保証金ナキニ同シ故ニ本條ニ於テ  
 ハ假令保証金ハ官ニ沒収シタリト雖モ其犯罪カ禁錮以上ノ刑ニ該  
 ルヘキモノニアラサルカ又ハ全ク犯罪トナラサルトキハ其保証金  
 ハ之ヲ還付セサルヘカラサルモノトセリ

**第五十八條** 豫審判事免訴ノ言渡違警罪又ハ罰金ニ該ル  
 可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シ若シクハ保釋

ノ言渡ヲ取消シタルトキハ保証金ヲ還付ス可シ

(解釋)本條ハ差出シタル保証金ヲ還付スル場合ヲ定メタルモノナリ  
 本條ノ規定ハ被告人違約シタルカ爲メ前ニ沒収シタル保証金ヲ還  
 付スルニアラスンテ勾留ス可カラサル被告人ヲ勾留シタルカ爲メ  
 保釋ヲ取消シ又ハ第一百五十六條ノ場合ニ於テ保釋ノ言渡ヲ取消シ  
 タルトキハ其保証金ヲ還付スルモノナリ

**第一百五十九條** 豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トテ問ハ  
 ス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付ス  
 ルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應  
 シ被告人ヲ出頭セシム可キ証書ヲ差出サシム可シ

(解釋)本條ハ責付ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノナリ  
 責付ノ事ハ本節ノ初ニ於テ説明シタレハ略ス

第六十條 責付中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十

四時前ニ其報知ヲ爲スヘシ

被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意

見ヲ聽キ責付ノ言渡ヲ取消ス可シ

(解釋)本條ハ責付中被告人ヲ呼出ス場合ト及ヒ其制ヲ規定シタルモノナリ

本條ノ趣旨ハ第五十三條及ヒ第五十四條ニ同シキヲ以テ略ス

第十節 豫審終結

(解釋)本節ニハ豫審終結ノ事ヲ規定セリ前節迄ノ規則ハ凡テ豫審終結前ノ處分法ニシテ保釋ヲ除ク外ハ皆本節ノ目的ヲ達センカ爲メニスルモノナリ

第六十一條 豫審判事ニ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ要スルユトナシト思料シタルトキハ豫審

終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記録ヲ送致ス可シ

檢事ハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ三日内ニ之ヲ還付ス可シ

(解釋)本條ハ豫審終結ノ言渡ヲ爲ス可キ手續ヲ定メタルモノナリ

豫審判事ハ第一着ニ被告事件其管轄ニ非スト認ムルカ又ハ他ニ取調ヘテ要スルコトナシト思料シタルトキハ豫審終結ノ處分ニ付檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記録ヲ送致スルナリ其趣旨タル檢事ヲシテ求刑セシメ公訴ノ實行ヲ爲サシメンカ爲メナリ

檢事ハ刑事ノ原告官ニシテ豫審判事ハ承審官ナリ故ニ其行フ處ノ職務モ盡然トシテ區域アリ即チ豫審判事ノ意見ハ檢事ニ知ラシムヘキモノニアラス又檢事ノ意見如何ニ拘ハルモノニアラス自ラ信スル處ニ依リ事件ノ結末ヲ付クルモノナリ故ニ訴訟記録ヲ檢事ニ送致スルハ證據ノ有無ヲ取調ヘテ其アル處ノ證據ヲ示シテ其意見

ヲ問フニ過キス

第二項ハ檢事書類ノ見閲ヲ爲シ意見ヲ付スルニ付テ遷延シテ事務延滞スルヲ防カンカ爲メ制限ヲ設ケタルモノナリ

第六十二條 檢事ハ豫審十分ナラスト思料シタルトキハ其條件ニ付キ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得若シ豫審判事其請求ヲ肯セサルトキハ檢事ハ訴訟記録ニ意見ヲ付シテ二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ

(解釋)本條ハ豫審判事ノ獨立ノ職務タルコトヲ規定セリ

檢事ハ豫審未タ十分ナラスト思料シタルトキハ更ニ取調ヲ求ムルコトヲ得然レトモ豫審判事ハ前條ニモ述ヘシ如ク檢事ノ意見ニ拘束セラル、モノニアラサルヲ以テ其求メニ應スルト否トハ固ヨリ豫審判事自身ノ權内ニ在リ若シ豫審判事檢事ノ意見ヲ用ヰサルトキハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ其求メヲ拒ミタルヨリ二十四時内ニ返

却セサルヘカラス此場合ニ於テハ豫審判事ハ檢事ト意見ヲ異ニスルヲ以テ其儘ニテ終結ノ言渡ヲ爲スヘキナリ

第六十三條 豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後數條ニ記載シタル決定ヲ以テ豫審ヲ終結ス可シ

(解釋)本條モ亦豫審判事ノ獨立ノ職務タルコトヲ規定シタルモノナリ

豫審判事ハ獨立ノ職權ヲ有シ敢テ檢事ノ意見ニ拘ラサルコトハ前條ニ説ク處ナリ故ニ豫審判事ハ檢事ノ意見ノ如何ヲ問ハス第六十四條以下ノ規定ニ從ヒ豫審終結ノ處分ヲ爲スヘキナリ

第六十四條 豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ認メタルトキハ其旨ヲ言渡ス可シ若シ勾留ヲ要スルモノト認ムルトキハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

(解釋)本條ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ  
 豫審ノ言渡ハ公判ノ言渡ノ如ク式ヲ要スルモノニアラスト雖必ス  
 決定書ヲ以テ言渡スヘキモノナリ豫審判事管轄違ノ言渡ヲ爲セハ  
 已ニ其豫審判事ノ手ヲ離レタルモノナレハ是迄發シタル令狀ハ無  
 効トナルナリ若シ令狀無効トナレハ被告人ヲ拘束スルヲ得サレハ  
 之ヲ釋放セサルヘカラス然ルトキハ或ハ其隙ニ乘シテ逃走スル等  
 ノ恐レアルヲ以テ本條ニハ特ニ管轄違ノ言渡ヲ爲スト雖勾留ヲ要  
 スルモノト認メタルトキハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ  
 發スル旨ヲ規定セリ

**第六十五條** 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ  
 爲シ且被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス  
 可シ

第一 犯罪ノ證據十分ナラサルトキ

第二 被告事件罪ト爲ラサルトキ

第三 公訴ノ時効ニ罹リタルトキ

第四 確定判決ヲ經タルトキ

第五 大赦アリタルトキ

第六 法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ

(解釋)本條ハ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ場合ヲ定メタルモノナリ  
 公判ニ於テハ無罪ト免訴トヲ區別スレトモ豫審ニ於テハ此區別ナ  
 ク概シテ皆免訴ノ言渡ヲ爲スナリ是レ豫審ノ言渡ハ本案ノ裁判ニ  
 非スシテ唯證據ノ有無ヲ決定スヘキモノナルヲ以テナリ  
 茲ニ免訴ト放免トノ區別ニ付聊カ解説スル處アルヘシ即チ免訴ノ  
 言渡トハ公訴ヲ免スルカ爲メニ言渡スモノナレハ其事件ニ付言渡  
 スモノナリ又放免ノ言渡トハ唯被告人ノ勾留ヲ免シテ自由ヲ與フ  
 ルカ爲メ其身体ヲ解放スル言渡ナリ

本條第一ヨリ第五迄ニ記載シタルモノハ第六條及ヒ其他ノ條項ニ於テ解説シタレハ爰ニ贅セズ第六ノ法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキトハ彼親屬相盜ノ如キヲ云フモノニシテ本來罪ハアレトモ其刑ヲ全免スルモノナリ故ニ不論罪ト混スヘカラス不論罪ハ即チ第二ノ被告事件罪ト爲ラサルトキノ内ニ入ルモノトス

**第六十六條** 被告事件違警罪ナリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ被告事件ヲ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

本條ニハ解説ヲ要スル程ノモノナシ放免ト釋放ノ區別ニ付聊カ辨明スヘシ即チ放免トハ前條ノ解ニ於テ述ヘタル如ク全ク其身体ノ拘束ヲ解放スル言渡ニシテ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ爲ストキニ併セ

テ之ヲ言渡スモノナリ釋放モ等シク自由ヲ與フル言渡ナレトモ本案ニモ定ムル如ク其被告事件ハ犯罪ト認ムヘキモ法律上被告人ヲ勾留スルヲ許サレタルヲ以テ其勾留ヲ解シカ爲メニ言渡ヌモノナリ

**第六十七條** 被告事件裁判所構成法第十六條第二號ニ記載シタル輕罪ナリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ其他ノ輕罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ノ輕罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ  
被告人勾留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ルモノト思料シタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ  
禁錮ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲スコトヲ得若シ被告人未タ勾留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發スルコトヲ得

(解釋)本條ハ被告事件ヲ區裁判所ニ移シ又ハ輕罪公判ニ移ス場合ヲ

定メタルモノナリ

豫審判事裁判所構成法第十六條第二號輕罪ト思料シタルトキハ之ヲ區裁判ニ移スノ言渡ヲ爲シ其他ノ輕罪ナリト思料シタルトキハ之ヲ其裁判所ノ輕罪公判ニ移ス言渡ヲ爲スヘキナリ茲ニ其他ノ輕罪トアレトモ其裁判所ノ管轄權アル輕罪ヲ指シタルモノニシテ他ノ管轄ニ屬スル輕罪若シハ大審院ノ特別權限ニ屬スル皇族ノ犯シタル輕罪ハ固ヨリ本案ノ規定外ナリトス第二項第三項ハ解説ヲ要スルモノナシ

第六十八條 被告事件重罪ナリト思料シタルトキハ其裁判所ノ重罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ若シ保釋ヲ許シ又ハ責付ヲ爲シタルトキハ其言渡ヲ取消シ被告人未タ勾留ヲ受ケサルトキハ令狀ヲ發ス可シ

(解釋)本條ハ被告事件ヲ重罪公判ニ移ス言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メ

タルモノナリ

本條ハ前條ノ趣旨ト大差ナシト雖重罪事件ニ關スルヲ以テ被告人逃走ノ恐レ顯然タルモノナレハ保釋ヲ許シ責付ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消シ未タ勾留ヲ受ケサルトキハ勾留狀ヲ發セサルヘカラス

第六十九條 豫審終結ノ決定ニハ事實及ヒ法律ニ依リ

其理由ヲ付ス可シ

管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ其理由ヲ明示シ若シ被告人ヲ勾留ス可キ事件ハ其理由ヲ明示ス可シ

免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件罪ト爲ラサルコト公訴受理ス可カラサルコト及ヒ其理由又犯罪ノ證據十分ナラサルトキハ其旨ヲ明示ス可シ

區裁判所ニ移ス言渡又ハ公判ニ付スル言渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質模様証憑ノ十分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰ス可



キ法律ノ正條ヲ明示ス可シ

(解釋)本條ハ豫審終結ノ言渡ヲ爲ス必要ノ條件ヲ規定シタルモノナリ

豫審終結ノ決定ヲ爲スニハ法律上ノ理由ト事實上ノ理由ヲ明示セサルヘカラス若シ之ヲ明示セサルトキハ違法ノ決定ニシテ其言渡ノ効ナカルベシ本條第一項ハ其大綱ヲ揚ケ第二項以下ハ其細目ヲ示シタリ

茲ニ法律上ノ理由ト事實上ノ理由ヲ區別スレハ本條第二項管轄違ノ場合ニ於テ被告ハ云々ノ事實アルヲ以テ其所爲ハ朝憲ヲ紊乱スルコトヲ目的ト爲シ内乱ヲ起シタルモノニシテ而シテ被告ハ其首魁タル者ナリト云フカ如キハ即チ事實上ノ理由ナリ又此犯罪ハ刑法第二編第二章ニ掲ケタル重罪ニシテ大審院ノ特別權限ニ屬スル管轄ナリト云フカ如キハ即チ法律上ノ理由ナリ此二理由ヲ明示シ

テ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリ其他免訴ノ言渡ニ於ルモ區裁判所ニ移シ公判ニ付スル言渡ニ於ルモ同様ナリ又區裁判所ニ移シ公判ニ付スル言渡ニハ犯罪ノ性質摸樣證據ノ十分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰スヘキ法律ノ本條ヲモ明示スヘキモノナリ

第七十條 前條ノ決定ニハ第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告人ノ氏名ヲ明示ス可シ

(解釋)本條ハ豫審終結ノ決定ニハ第七十六條ノ規定ヲ準用ス可キ旨ヲ定メタリ

前條ノ決定書ニハ第七十六條ノ令狀ヲ發スル場合ト同シク被告人ノ氏名職業住所等ヲ明示スヘキモノトス

第七十一條 豫審終結ノ決定ノ正本ハ速カニ檢事及ヒ被告人ニ送達スヘシ

(解釋)本條ハ豫審終結ノ決定ヲ訴訟關係人ニ送達スヘキ規則ヲ定メ

タルモノナリ

豫審終結ノ決定書ノ正本ハ速カニ檢事及ヒ被告人ニ送達セサルヘ  
カラ大是レ檢事ハ公訴ノ實行及ヒ決定ノ執行又ハ抗告ヲ爲スニ付  
キ必要アリ被告人ハ弁論ノ材料又ハ抗告ヲ爲ス等何レモ訴訟ノ利  
害ヲ受クルモノナレハナリ

第七十二條 檢事ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若

クハ管轄違ノ重罪公判ニ付スル決定ニ對シ抗告ヲ爲ス  
コトヲ得

(解釋)本條ハ檢事及ヒ被告人豫審終結ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコト  
ヲ得ル場合ヲ規定シタルモノナリ

檢事ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若クハ管轄違ノ決定ニ對シ  
抗告スルコトヲ得レトモ被告人ハ單ニ重罪公判ニ付スル決定ノミ  
ニ對シテ抗告スルコトヲ得ルナリ

抗告トハ上訴ノ一ニシテ之ヲ爲ス方法手續ハ第二百九十三條以下  
ニ詳カナリ

(治罪法)ハ豫審中ノ故障及ヒ豫審終結ノ言渡ニ對スル故障ノ規定  
アリシカ此訴訟法ニ於テハ之レヲ廢止シ本條ヨリ第七十四條迄  
ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ル規定トセラレタリ是重モナル改正ノ第十  
九ナリ)

第七十三條 重罪公判ニ付スル場合ニ於テ被告人ニ送

達ス可キ決定ニハ其決定ニ對シ抗告ヲ爲スヲ得ヘキコ  
ト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ其記載ナキトキハ更ニ通常  
ノ規定ニ從ヒ決定ノ送達アルマテ抗告ノ期間ノ經過ヲ  
停止ス

(解釋)本條ハ重罪公判ニ付スル決定ニハ抗告ヲ爲スヲ得ヘキコト、  
其期間ヲ記載ス可キコトヲ定メタルモノナリ

若シ本條ノ規定ニ違フトキハ其決定ハ無効ニシテ更ニ通常ノ規定ニ從ヒテ決定ノ送達アル迄ハ何時ニテモ抗告ヲ爲スコトヲ得可キナリ

第七十四條 豫審終結ノ決定ハ抗告ノ期間内又抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス但保釋責付ノ言渡ヲ取消ス決定ハ其執行ヲ停止セス

(釋解)本條ハ豫審終結ノ決定ヲ停止スル場合ヲ定メタルモノナリ抗告ノ期間内又ハ抗告アリテ其決定アル迄ハ豫審終結ノ決定ハ未確定ノモノニ付執行力ヲ生セス故ニ之ヲ停止スルナリ然レトモ保釋又ハ責付ノ言渡ハ本案ノ被告事件トハ別事ニシテ抗告ニ關係ナキヲ以テ停止セサルモノナリ

第七十五條 豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルトキハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付

再ヒ訴ヲ受クルコトナカル可シ但新ナル証憑アルトキハ此限ニ在ラス

新ナル証憑アルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁判所ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

(解釋)本條ハ一事不再理ノ原則ト其例外ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

豫審ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルトキハ假令ヒ罪名ヲ變更スルモ同一ノ事件ニ付テハ再ヒ訴ヲ起スコトヲ得ス是一事再理セサルノ原則ニシテ其詳細ハ第六條確定裁判ノ處ニ於テ解説セリ然レトモ新ナル証憑ノ出テタルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁判所ハ其起訴ヲ許ス可キモノナルヤ否ヲ決定スヘキモノトス是レ豫審ハ證據ノ有無ヲ定ムル迄ノ者ニシテ其本案ノ裁判ヲ爲スニアラサルヲ以テナリ故ニ公判ノ場合トハ大ニ異ル所アリ

### 第四編 公判

(解釋)公判トハ本案ノ判決ヲ爲ス訴訟手續ヲ云フ故ニ公判ハ豫審ノ終結スル所ニ從ヒ事實ヲ審案シテ法律ノ適用ヲ爲スモノナリ公判ハ裁判所構成法ニ定ムルカ如ク區裁判所ノ公判ヲ除ク外合議ノ裁判制度ニ出ツルモノニシテ其詳細ハ前編豫審ノ處ニ於テ解説シタルハ茲ニ略スト雖此公判并ニ上訴ノ規則等ハ裁判所構成法ニ規定アルモノハ本法ニ省キタル個所少カラサレバ讀者ハ全法ニ對比シテ研究スヘキコトヲ忘ルヘカラス

#### 第一章 通則

(解釋)通則トハ總則ト其趣旨ヲ同フスト雖適用上ニ廣狹ノ別アルモノトス第一編總則ノ解ヲ參看スヘシ

### 第七十六條 公判ハ判事檢事裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトス

(解釋)本條ハ公判開廷ノ式ヲ定メタルモノナリ

區裁判所ノ公判ハ裁判所構成法第十一條ニ依リ單獨判事之ヲ爲スト雖地方裁判所ニ在リテハ全法第三十二條ニ地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判スヘキ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組織スル部ニ於テ之ヲ審問裁判ス其三人ノ判事中一人裁判長トス云々ト規定アリ故ニ地方裁判所ノ公判ハ三人ノ判事ヲ要シ又檢事ハ刑事ノ原告官ニシテ訴訟關係人ナリ書記ハ公判ニ關スル一切ノ訴訟記録ヲ作ル職分ナリ此三種ノ官吏ノ出廷ハ公判ヲ爲スニ付テハ方式ナレハ其一ヲ缺クトキハ公判ヲ開廷スルコトヲ得サルナリ

### 第七十七條 被告人ハ公廷ニ於テ身體ノ拘束ヲ受クルコトナシ

(解釋)本條ハ公廷ニ於テ被告人ヲシテ自由ニ辯論セシムル爲メノ規定ナリ

身體ノ拘束ハ特リ身體ノミニ止マラス從テ精神ヲ束縛スルモノナ  
レハ爲メニ精神錯乱シテ陳述スル處其實ヲ失フカ如キコトアルハ  
シ故ニ公廷ニ於テハ身體ヲ拘束スルコトナク自由ニ陳述ヲ爲サシ  
ムルモノトス併テ身體ヲ拘束セサルカ爲メ或ハ被告人逃走スルノ  
恐レナシトセス由之時宜ニ依リ守卒ヲ置キ之ヲ看護セシムルコト  
アルヘシト定メラレタリ

第七十八條 裁判所ニ於テハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑

ニ該ル可キ被告人ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルコ  
トヲ得

(解釋)本條ハ裁判所ニ於テ令狀ヲ發スルコトヲ定メタリ  
公判ニ付セラレタル被告人未タ勾留ヲ受スシテ其呼出ニ應セサル  
コトアリ又ハ豫審判事ニ於テ罰金ノ刑ニ該ルモノニシテ公判ニ付  
シタル事件ヲ公判ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ事件ト認ムルコ

ト等アル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケサルカ爲メ逃走スル恐レア  
ルニ當リ裁判所ニ於テ令狀ヲ發スル權ナキトキハ終ニ審判ヲ爲ス  
能ハサルカ如キ不都合アリ是レ本條ノ規定アル所以ナリ

(此刑事訴訟法ニ於テハ裁判所ハ勾引狀勾留狀ヲ發スルヲ得ルコト  
、定メラレタリ是重モナル改正ノ第二十ナリ

第七十九條 被告人ハ辨論ノ爲メ辨護人ヲ用ユルコト

ヲ得

辨護人ハ裁判所所屬ノ辨護士中ヨリ之ヲ撰任ス可シ但  
裁判所ノ允許ヲ得タルトキハ辨護士ニ非サル者ト雖辨  
護人ト爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ被告人辨護ノ爲メ辨護人ヲ用ニルコトヲ許シタルモノ  
ナリ

此辨護人ヲ用ユルハ被告人カ已ノ意ヲ十分ニ述フル能ハサル所ヲ

辯護人ヲシテ辯護セシメ自己ノ精神ニ毫モ遺憾ナカラシメ公平無私ノ裁判ヲ受ケシメンカ爲メ設ケラレタルモノニシテ之ヲ被告人ノ辯護ノ權利ト云フ

辯護人ハ其裁判所所屬ノ辯護士ノ中ヨリ撰任ス可シト雖必ス辯護人ハ辯護士ニ限リタルモノニアラス被告人ノ親屬故舊ノ能ク其任ニ耐ユルモノアルトキハ裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲スコトヲ得ルモノトス

第一百八十条 辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ閲讀シ且之ヲ抄寫スルコトヲ得

(解釋)本條ハ辯護人裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ閲讀シ而シテ其要点ヲ抄寫シ以テ辯護ノ材料ト爲スコトヲ定メタルモノニシテ別ニ解説ヲ要セス

第一百八十一条 被告人ノ法律上代理人ハ其補佐人ト爲リ

辯論ニ與カルコトヲ得

(解釋)本條ハ被告人ノ法律上ノ代理人カ其補佐人ト爲リテ辯論スルヲ得ヘキコトヲ規定セラレタルモノナリ  
法律上ノ代理人トハ先キニモ述ヘシ如ク幼者ノ父母後見人等ヲ云フモノニシテ是等ノモノハ特リ其幼者ニ就キ監督權ヲ有スルノミナラス又利害ヲ共ニシ私訴ニ對シテハ民事担当者タルノ關係アルモノナレハ之カ補佐人トシテ辯論ニ與カルヲ得ルモノトセラレタリ此補佐人トハ代理人ト同シカラス即チ代理人ハ本人ニ代リテ本人ト同シク訴訟ニ關係スルモノナレハ本人ノ出頭ヲ要セスト雖補佐人ハ本人ニ代リテ訴訟ニ與カルモノニアラス本人ヲ補助比保シテ辯論ニ與カルモノナレハ必ス本人ノ出頭ヲ要スルナリ  
(本條ハ治罪法ニ規定ナキ新設ノ規則ナリ是重モナル改正ノ第二十ナリ)

第八十二條 被告人出頭シテ辨論スルコトヲ肯セサル

トキハ對席トシテ裁判ヲ爲ス可シ

被告人審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退  
廷又ハ勾留ヲ命セラレタルトキ亦同シ若シ辨論二日ニ  
涉ルトキハ更ニ被告人ヲ出頭セシム可シ

(解釋)本條ハ被告人公廷ニ出頭シテ辨論ヲ肯セサルトキ又ハ不當ノ  
行狀アルトノ規則ヲ定メタルモノナリ

被告人辨論ヲ肯セサルトキハ自ラ辨護權ヲ拋棄シタルモノニシテ  
強イテ之ヲ爲サシムヘキニアラサレハ法律ハ辨論アリタルモノト  
看做シ裁判ヲ爲スナリ

又被告人暴行喧噪其他不當ノ行狀ヲ爲シテ審問ヲ妨ケ又ハ辨論ヲ  
拒ムトキ裁判長ヨリ退庭又ハ勾留ヲ命セラレタル場合ニ於テモ對  
密トシテ裁判ヲ爲スヘキナリ是亦被告人自ラ辨護權ヲ拋棄シタル

モノナリ若シ辨論二日ニ涉ルトキハ更ニ出廷セシム可シ其故ハ假  
令ヒ前日暴行喧噪ヲ爲シ退廷又ハ勾留ヲ命セラル、モ前非ヲ悔ヒ  
之ヲ改ムルハ人情ナレハ爲メニ最後迄モ貴重ナル辨護權ヲ奪フハ  
被告人ヲ保護スル法律ノ精神ニ悖レハナリ

右ハ被告人ニ付テノ規定ナリ其他証人鑑定人傍聽人等ニ關シ公廷  
ノ秩序ヲ維持スル爲メノ規則ハ裁判所構成法第百七條以下ニ在リ

第八十三條 被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スル

コト能ハサルトキハ痊癒ニ至ルマテ辨論ヲ停止ス但罰  
金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人代人ヲ差出シ  
タルトキハ此限ニ在ラス

辨論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ其痊  
癒ノ後新ニ辨論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊  
癒ノ後前ニ停止シタル以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間

辨論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辨論ヲ爲ス可シ  
若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辨論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スユトナク裁判ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ被告人精神錯乱又ハ他ノ疾病ニ罹リタルトキノ規則ヲ定メラレタルモノナリ

第一項ハ未ダ辨論ニ取掛ラサル前ニ被告人精神錯乱シ又ハ他ノ疾病ニ罹リ出頭スル能ハサル場合ニシテ此トキハ痊癒ニ至ル迄辨論ヲ停止スルモノナリ是強イテ出頭セシムルモ十分ニ辨論ノ實ヲ盡ス能ハサルガ故ナリ但罰金以下ノ刑ニ在リテハ代理人ヲ訴スガ故ニ代理人ヲ出ストキハ被告人同様ニ辨論ヲ爲スナリ  
第二項ハ既ニ辨論ニ取掛リタル後被告人精神錯乱シ又ハ他ノ疾病

ニ罹リタル場合ノ規定ナリ新ニ辨論ヲ爲ス可シトハ精神錯乱セサル前ニ辨論セシコトモ盡ク捨テ、最初ニ溯リ辨論ヲ爲スナリ是精神錯乱モ起ルトキニ起ルモノニアラス必ス其以前ニ胚胎スル處アルヲ以テ到底其辨論ハ確實ト認ムルヲ得サレハナリ併テ他ノ病ニ在リテ其痊癒ノ後ニ於テ前ニ停止シタルヨリ以後ノ辨論ヲ爲スヘシトアルハ其病タル精神病ニアラサルガ故ナリ然リト雖五日間辨論ヲ停止スルカ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辨論ヲ始ムヘキナリ此事タル人ノ遺忘ニ基ク規定ナリトス  
第三項右何レノ場合ニ於テモ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ辨論終結シタルトキハ固ヨリ新ニ取調ヲ爲スノ必要ナクレハ直チニ裁判ヲ爲スヘキナリ

第百八十四條 裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラズ但辨論ニ因リ發見シタル附帶犯罪



ニ付テハ此限ニ在ラス

若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本條ノ辨論ヲ停止スルコトヲ得

(解釋)本條ハ訴ナケレハ理セストノ原則ヲ掲ケ尙ホ變例ヲ示シタルモノナリ

訴ナケレハ理セストハ其民事タリ刑事タルヲ論セス裁判ノ原則ナリ故ニ裁判所ニ於テハ如何ナル事ト雖訴訟ノ起ラサル事件ハ之ヲ裁判スルヲ得ス然リト雖此原則ヲ嚴守スルトキハ實際上不都合ヲ生スル場合アルヲ以テ本條但書ニ辨論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付キテハ假令ヒナキモ之ヲ裁判スルコトヲ得ト定メラレタリ此附帶犯罪ノ何タルハ之ヲ次條ニ讓ルヘシ

第二項附帶ノ犯罪ニ付豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本案ノ辨論ヲ停止スルコトヲ得ト定メラレタリ附帶犯罪ヲ發見シタルトキハ

度ニ二個ノ才判ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ其附帶ノ犯罪ハ未ダ其取調十分ナラサレハ通常ハ本案ノ裁判ヲ先キニシ附帶ノ犯罪ハ後ニスヘキナリ然レトモ其附帶事件ニ付豫審ヲ必要トスルトキハ本案ノ辨論ヲ停止シテ附帶事件ノ取調ヲ爲スナリ

(治罪法ニハ公廷内ノ犯罪ニ付キテモ附帶犯ノ場合ト同一ノ規定ナリシカ此訴訟法ニ於テハ之ヲ廢セラレタリ是重モナル改正ノ第二十一ナリ)

第八十五條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

第一同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ

第二數人通謀シテ同時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

第三自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ

免カ、爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

(解釋)本條ハ附帶ノ犯罪ノ場合ヲ定メタルモノナリ

第一ハ同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人ニテ數罪ヲ犯シ又ハ同一ノ場所ニ於テ同時ニ數人ニテ數罪ヲ犯シタルモノヲ云フ故ニ其事件自ラハ關聯スルニアラスシテ唯々場所ト時間トニ因リ延イテ犯罪事件ニ關係ヲ持ツ場合ナリトス

第二ハ數人通謀シテ日時ヲ異ニシ數罪ヲ犯シ又ハ數人通謀シテ場所ヲ異ニシテ數罪ヲ犯シタルモノニシテ場所ト時間トニハ關係ナキモ其事件ノ原由ヲ同フスルモノヲ云フ

第三ハ自己ノ或ル犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ自己ノ罪ヲ免ル、爲メ或ル他ノ罪ヲ犯シ又ハ他人ノ或ル犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ或ル他ノ罪ヲ犯シタル場合ニシテ一罪ハ一罪ノ原因ト爲リ一罪ハ一罪ノ結果ト爲リ互ニ原因結果ノ關連ス

ルモノヲ云フ

以上三個ノ犯罪ハ假令ヒ公訴ノ提起ナシト雖モ前條ノ規定ニヨリ辨論ノ際發見シタル裁判所併セテ之ヲ管轄ス然レモ犯罪ノ種類ニヨリ若クハ犯人ノ身分ニヨリテノ裁判管轄ハ固ヨリ裁判所構成法ニ依ルヘキモノトス

學者往々本條ヲ以テ單ニ例示ノ法文ト爲シ附帶ノ犯罪ハ必スシモ法文ニ記載スル三個ノ場合ニ限ラスト爲セトモ前條ニ於テ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ就キテ裁判ヲ爲スヘカテスト嚴令シテ其例外トシテ附帶犯罪ノ場合ヲ規定シタレハ本條三個ノ場合ハ類似ノ事柄ヲ以テ比附援引スルヲ許サ、ルノ趣旨ナルヘシ

第八十六條

檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス

本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ爲スコトヲ得

ニ付テハ此限ニ在ラス

若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本條ノ辨論ヲ停止スルコトヲ得

(解釋)本條ハ訴ナケレハ理セストノ原則ヲ掲ケ尙ホ變例ヲ示シタルモノナリ

訴ナケレハ理セストハ其民事タリ刑事タルヲ論セス裁判ノ原則ナリ故ニ裁判所ニ於テハ如何ナル事ト雖訴訟ノ起ラサル事件ハ之ヲ裁判スルヲ得ス然リト雖此原則ヲ嚴守スルトキハ實際上不都合ヲ生スル場合アルヲ以テ本條但書ニ辨論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付キテハ假令ヒナキモ之ヲ裁判スルコトヲ得ト定メラレタリ此附帶犯罪ノ何タルハ之ヲ次條ニ讓ルヘシ

第二項附帶ノ犯罪ニ付豫審ヲ必要ナリトスルトキハ本案ノ辨論ヲ停止スルコトヲ得ト定メラレタリ附帶犯罪ヲ發見シタルトキハ一

度ニ二個ノ才判ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ其附帶ノ犯罪ハ未タ其取調十分ナラサレハ通常ハ本案ノ裁判ヲ先キニシ附帶ノ犯罪ハ後ニスヘキナリ然レトモ其附帶事件ニ付豫審ヲ必要トスルトキハ本案ノ辨論ヲ停止シテ附帶事件ノ取調ヲ爲スナリ

(治罪法ニハ公廷内ノ犯罪ニ付キテモ附帶犯ノ場合ト同一ノ規定ナリシカ此訴訟法ニ於テハ之ヲ廢セラレタリ是重モナル改正ノ第二十一ナリ)

第八十五條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

第一同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ

第二數人通謀シテ同時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

第三自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ

免カ、爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

(解釋)本條ハ附帶ノ犯罪ノ場合ヲ定メタルモノナリ

第一ハ同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人ニテ數罪ヲ犯シ又ハ同一ノ場所ニ於テ同時ニ數人ニテ數罪ヲ犯シタルモノヲ云フ故ニ其事件自ラハ關聯スルニアラスシテ唯々場所ト時間トニ因リ延イテ犯罪事件ニ關係ヲ持ツ場合ナリトス

第二ハ數人通謀シテ日時ヲ異ニシ數罪ヲ犯シ又ハ數人通謀シテ場所ヲ異ニシテ數罪ヲ犯シタルモノニシテ場所ト時間トニハ關係ナキモ其事件ノ理由ヲ同フスルモノヲ云テ

第三ハ自己ノ或ル犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ自己ノ罪ヲ免ル、爲メ或ル他ノ罪ヲ犯シ又ハ他人ノ或ル犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ他人ノ罪ヲ免レシムル爲メ或ル他ノ罪ヲ犯シタル場合ニシテ一罪ハ一罪ノ原因ト爲リ一罪ハ一罪ノ結果ト爲リ互ニ原因結果ノ關連ス

ルモノヲ云フ

以上三個ノ犯罪ハ假令ヒ公訴ノ提起ナシト雖モ前條ノ規定ニヨリ辨論ノ際發見シタル裁判所併セテ之ヲ管轄ス然レモ犯罪ノ種類ニヨリ若クハ犯人ノ身分ニヨリテノ裁判管轄ハ固ヨリ裁判所構成法ニ依ルヘキモノトス

學者往々本條ヲ以テ單ニ例示ノ法文ト爲シ附帶ノ犯罪ハ必スシモ法文ニ記載スル三個ノ場合ニ限ラスト爲セトモ前條ニ於テ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ就キテ裁判ヲ爲スヘカテスト嚴令シテ其例外トシテ附帶犯罪ノ場合ヲ規定シタルハ本條三個ノ場合ハ類似ノ事柄ヲ以テ比附援引スルヲ許サ、ルノ趣旨ナルヘシ

第八十六條

檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス

本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル申立ヲ爲スユトヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公謝受理ス可カラサル言渡ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ訴訟關係人ノ權利ヲ規定シタルモノナリ

檢事及ヒ被告人ハ第一審タルト第二審タルトヲ問ハス事實ノ審問中ハ勿論法律ノ適用ニ就キ辨論終リタル後ト雖未ダ本案ノ判決アル迄ハ管轄違又ハ公訴受理スヘカラサル申立ヲ爲スコトヲ得ルナリ管轄違トハ先キニモ述ヘシ如ク犯罪ノ種類犯罪ノ場所被告人ノ身分等ニ付其管轄ヲ異ニスルヲ云ヒ公訴受理スヘカラサルモノトハ第六條ニ規定シタル原由アルモノナ云フ

第二項裁判所ハ前項ノ事件アリト認メタルトキハ其裁判權ヲ確實ニシ其信憑ヲ維持スルカ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ

第百八十七條 裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルト

キハ本案ノ判決ヲ待タス直ニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辨論ヲ停止ス

(解釋)本條ハ本案前ノ判決ニ對シ控訴上告ヲ爲スコトヲ得ル場合ヲ定メタルモノナリ

本案前ノ判決ニ對シテ控訴上告ヲ爲ス場合ハ特リ本條ノ規定アルノミ通常ハ本案ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シ其控訴ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スヲ以テ順序トス然ルニ本案ノ場合ニ於テハ其順序ニ依ラズ直ニ控訴ヲ爲シ又ハ上告ヲ爲スコトヲ得是レ特ニ直ニノ文字ヲ記載シタル所以ナリ又前條ノ申立ハ實ニ本案事件ノ存廢當否ニ關係アル一大要件ナレハ此申立ヲ棄却シタルトキハ控訴上告ノ判決アルマテハ辨論ヲ停止スルモノトセリ

第百八十八條 調書ヲ作りタル司法警察官ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ證人ト

シテ之ヲ呼出スユトヲ得

(解釋)本條ハ司法警察官ヲ證人トシテ呼出ス場合ヲ定メタルモノナリ

調書ヲ作りタル司法警察官ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ證人トシテ呼出スヲ得ルナリ然レモ司法警察官ヲ證人トシテ呼出スハ通常證人ノ如ク犯罪ニ付テノ事實ヲ直接ニ証言セシムルニアラスシテ調書ニ錄収シタル事實ニ付キ証明セシメ若クハ之ヲ確實ナラシムル爲メ呼出スモノナレハ直接ニ調書ヲ証シ問接ニ犯罪ヲ証スルニ過キス故ニ呼出ス手續モ通常證人ノ如ク呼出狀ヲ發スルニ及ハス猶豫ヲ與フルコトナク即時ニ一片ノ報知書ヲ發スレハ足レリ又宣誓ヲ爲サシムヘキモノニアラサルハ司法警察官ハ其作爲セル調書ヲ確認シ若クハ説明スルモノナレハ其調書ヲ作りシトキニ宣誓ヲ要セサルモノニ後ノ説明ニ至リテ宣

誓セシムルノ理ナケレハナリ是通事証人ト異ル大要ナリ

第百八十九條 豫審ニ於テ訊問シタル証人又ハ鑑定ヲ爲

シタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スユトヲ得

豫審ニ於ケル証人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其証人鑑定人ヲ呼出サレトキ証人鑑定人呼出テ受ケ出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルユトヲ得

(解釋)本條ハ豫審ニ於テ訊問シタル証人及ヒ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ヲ公判廷ニ呼出シ又ハ証人ノ供述書類鑑定人ノ鑑定書ヲ朗讀スル場合ヲ定メタルモノナリ

証人鑑定人ヲ再ヒ公判廷ニ呼出スハ徒ニ重複ノ手數ナルカ如シト

雖之ヲ目前ニ呼出シ親シク訊問ヲ爲ストキハ所謂百聞ハ一見ニ若カストノ謬ノ如ク大ニ事實ヲ發見スルコトアルヲ以テナリ

第二項ハ豫審ノ証人供述書鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其証人鑑定人ヲ呼出サ、ルトキ又ハ是等ノ者呼出チ受ク出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述鑑定ヲ比較スルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ情求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ別ニ解説スル程ノモノナシ

第百九十條 第百十五條以上ノ規定ハ公判ノ証人ニ第百三十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

(解釋)本條ハ第百十五條乃至第百三十四條ニ定ムル豫審ノ證人ニ付テノ規則ハ公判ノ証人又第百三十五條乃至第百四十一條ニ定ムル豫審ノ鑑定人ニ付テノ規則ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用スル旨ヲ定メタルモノニシテ別ニ解説スル事ナシ唯々一ハ密行シ一ハ公

行スルノ差アルノミ

第百九十一條 証人疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ裁判所ハ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シ其所在ニ就テ之ヲ訊問セシムルコトヲ得

(解釋)本條ハ証人出頭スル能ハサルトキ訊問ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

証人疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルコトヲ分疏証明シタルトキハ裁判所ハ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シテ其所在ニ就キテ之ヲ訊問セシムルコトヲ得ルナリ茲ニ其部員一名トアルハ本來地方裁判所ノ公判ハ合議裁判ナレハ裁判所構成法第三十二條ニ地方裁判所ニ於テ訴訟法ニ依リ法廷ニ於テ審問裁判ス可キ事件ハ三人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ之ヲ審問裁判

ス云々トアル其三人中ノ一人ヲ指シタルモノナリ

第九十二條 檢事被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ

呼出ス証人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ各相手方

ニ送達ス可シ

(解釋)本條ハ訴訟關係人ノ請求ニヨリ呼出スヘキ証人ノ氏名目錄ヲ各相手方ニ送達スヘキ規則ヲ定メタルモノナリ

檢事被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出スヘキ証人ノ氏名目錄ヲ開廷一日前ニ其相手方ニ送達スルハ辨論ニ付キ準備ヲ爲サシメシカ爲メナリ此開廷トハ審理ヲ爲スヘキ公廷ヲ開クノ云ヒナリ

(本條ノ規定ハ治罪法ニ見ヘサル新設ノモノナリ是重モナル改正ノ

第二十三ナリ)

第九十三條 証人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラス又供述前

辨論ニ立會フ可カラス既ニ供述ヲ爲シタル後ハ公廷ニ

留ル可シ但裁判長ヨリ退去ノ允許ヲ得タルトキハ此限

ニ在ラス

(解釋)本條ハ公廷ニ於テ証人ヲ檢束スル規則ヲ設ケタルモノナリ

豫審ニ於テ証人ヲ訊問スルニハ第二百二十七條ニ依リ各別ニ之ヲ訊問シ而シテ最モ秘密ヲ主トスレドモ公判ニ於テハ之ヲ公行スルモノナレハ成ルヘク証言ノ確實ヲ得ル方法ヲ設ケサルヘカラス故ニ

本條ニ証人互ニ言語ヲ接スルコトヲ禁シテ其雷同附和ヲ防キ又供述前辨論ニ立會フコトヲ禁シテ辨論ノ模様ニヨリテ供述ヲ左右スルカ如キ弊ナカラシメ又供述ヲ終リタル者ト雖尙ホ公庭ニ留リテ他ト通謀スル事ナカラシメタリ

本條ニハ言語ヲ接スヘカラストアレトモ法律ノ精神ハ特リ言語ニ止マラス文書形容等ヲ以テ互ニ相通スルコトモ之ヲ禁スルモノナラシ



第百九十四條 証人及ヒ被告人ノ訊問ハ裁判長之ヲ爲ス

モノトス

陪席判事及ヒ檢事ハ裁判長ニ告ケ証人及ヒ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

訴訟關係人ハ辨論ニ必要ナリトスル事項ヲ分明ナラシムル爲メ証人ヲ訊問ス可キコトヲ裁判長ニ求ムルヲ得

(解釋)本條ハ証人被告人ヲ訊問スヘキ權アル人ヲ定メタルモノナリ

証人被告人ヲ訊問スルハ裁判長ノ職權ナリトノ原則ヲ定メ而シテ

陪席判事及ヒ檢事モ亦裁判長ニ告ケテ之ヲ訊問スルコトヲ得トノ

變則ヲ設ケラレタリ陪席判事ハ合議一員ナレハ裁判所構成法第百

十九條以下ノ規則ニ從ヒ評議ヲ爲スノ材料ヲ取ル爲メ之ヲ訊問ス

ルノ必要アリ又檢事モ辨論ニ必要ナル事項ヲ訊問スルモノナリ

又被告人民事原告人民事担当者モ辨論ニ必要ナリトスル事項ヲ

分明ナラシムル爲メニ証人ノ訊問ヲ裁判長ニ請求スルノ權利ヲ與ヘラレタリ

第百九十五條 証人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ

出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキハ裁

判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權

ヲ以テ之ヲ取押ヘ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ

其証人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審

判事ニ送致ス可シ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢事其他訴訟關係人ノ

請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辨論ヲ停止スルコト

ヲ得

(解釋)本條ハ証人鑑定人ノ犯罪ニ付其處分手續ヲ定メタルモノナリ

本條ニ謂フ証人鑑定人虛偽ノ供述鑑定ニ付テノ制才ハ刑法ノ定ム

ル處ナリ然ルニ本條ハ其犯罪ニ對スル處分手續ヲ規定シタモノニシテ即チ証人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ取捕ヘ勾引狀ヲ發シテ豫審判事ニ送致ス可キナリ之ヲ受ケタル豫審判事ハ通常ノ規則ニ從ヒ之カ處分ヲ爲スモノトス

第二項供述ヲ錄取スルハ書記ノ任ニシテ之ヲ豫審判事ニ送致スルハ右事件ノ證據物ナルヲ以テナリ

第三項以上ノ場合ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニヨリ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辨論ヲ停止スルハ所謂偽証罪ノ發覺シタルモノナレハ今迄ノ供述總テ虛偽トナルヲ以テ更ニ訊問ヲ仕直サ、ルヲ得サレハナリ

### 第九十六條 被告人聾者啞者又ハ國語ニ通セサル者ナ

リルトキハ第九條第一條ノ規定ニ從テ

(解釋)本條ハ被告人聾者啞者又ハ國語ニ通セサル者ナルトキハ第九條第一條ニ定ムルカ如ク書面ヲ以テ問答シ又ハ通事ヲ用ユルコトヲ規定シタルモノニシテ別ニ解說ヲ要セス

第九十七條 裁判所ニ於テハ証人被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述ヲ爲スコトヲ得サル可シト思料シタルトキハ其証人供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得但裁判長ハ証人供述ヲ終リタル後被告人ヲ入廷セシメ其供述シタル事項ヲ告知ス可シ

本條ノ規定ハ共同被告人ニモ亦之ヲ適用ス

(解釋)本條ハ証人及ヒ被告人ヲシテ實狀ヲ供述セシムルノ一方法ヲ定メタルモノナリ

面前ニ於テ其人ノ惡ヲ發クハ通常人ノ爲スチ屑トセサル處ナリ故

ニ証人其被告人ノ面前ニ於テ供述スルヲ憚ルカ又ハ忍ヒサル等ノ  
事情アリテ眞實ノ供述ヲ爲スコトヲ得サル模様アルトキハ裁判所  
ハ一時被告人ヲ退廷セシメ而シテ証人ヲシテ十分ノ供述ヲ爲サシ  
ムヘキナリ但書ハ次條ノ解ニ因テ明カナリ

又以上ノ事柄ハ特リ証人ノミニ止マラス共同被告人中ニ於テモ亦  
然リ殊ニ共同ノ被告人ニ在リテハ互ニ意思ヲ通シ大ニ實狀ヲ掩蔽  
スルノ弊アルモノハ右証人ノ場合許否ト同シタ各自ニ審問ヲ爲ス  
コトヲ得ヘキ規定ヲ設ケタルモノナリ

第九十八條 裁判長ハ各証憑ノ取調終リタル毎ニ被告

人ニ意見アリヤ否ヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ証憑ヲ差  
出スヲ得可キコトヲ告知ス可シ

又証憑物件ハ被告人ニ示シテ辨解ヲ爲サシム可シ

(解釋)本條ハ被告人ノ辨護權ヲ認メタル規定ナリ檢事又ハ民事原告

人ヨリ提出シタル証憑又ハ証人ノ供述等ノ取調ヘ終ル毎ニ被告人  
ノ意見ヲ問ヒ辨護ノ道ヲ與フルハ是レ証據法ノ自然ノ順序ナリ又  
舉証ノ責任ハ原被兩者ニ在リテ即チ有罪ノ証明ハ檢事之ニ任シ無  
罪ノ証明ハ被告人ニ假スルモノナレハ若シ被告人ニ於テ之ヲ証明  
セサルトキハ其証據ニ服シタモノト看做サレ被告人ハ終ニ裁判上  
敗ヲ取ルニ至ルヘシ故ニ裁判長ハ殊更ニ反對ノ証憑ヲ差出スヲ得  
ヘキ旨ヲ被告人ニ告知スルナリ

又言語ヲ以テ証憑ノ取調ヘニ關スルコトヲ問フニ止マラス証憑物  
体ヲ明示シテ被告人ニ辨解ヲ爲サシムルモ以上ノ趣旨ニ外ナラサ  
ルナリ

第九十九條 辨論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリ

タルトキハ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ直ケニ之ヲ  
裁判ス可シ

(解釋)本條ハ異議ノ申立ヲ爲ス規則ヲ定メタルモノナリ  
 辨論中公判ノ手續ニ付異議ノ申立アリトハ證據供述ノ許否証人訊  
 問ノ規則等ニ付異議ノ申立アリタルトキ云フ此申立ニ付キコテ  
 ハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ裁判スヘキモノトス檢事  
 ノ意見ヲ聽クハ檢事ハ公益ヲ保護スル職任アルモノナルヲ以テナ  
 リ故ニ法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽クハ一ノ法式ニ  
 シテ若シ背クトキハ本案判決ノ後上告ノ理由トナル可シ(第二百六  
 十九條第六號參看)

第二百條 裁判所ニ於テハ公訴ノ判決ト同時ニ私訴ノ判  
 決ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ取調未タ十分ナラサルトキハ公訴ノ判決ア  
 リタル後其判決ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ私訴ノ裁判ヲ爲スコトヲ規定シタルモノナリ

第四條ニ於テ私訴ハ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ  
 公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ許サレタレハ其裁判ニ至リテモ亦  
 公訴ノ判決ニ附帶シテ之ヲ爲スコト當然ノ理ナリ併シ本條ニハ同  
 時ニ云々トアレトモ二事ヲ同時ニ爲サントスルモ理ニ於テ能ハサ  
 ル處ナレハ此同時トハ公訴ノ判決ニ引續キテト云フ意ニ解スヘキ  
 ナリ

第二項公訴ノ判決ヲ爲ストキ私訴ニ付テノ取調未タ十分ナラサル  
 場合ニ在リテハ假令ヒ公訴ノ判決アラサル後ト雖私訴ノ判決ヲ爲  
 スヘキナリ是レ固ト私訴ハ附帶事件トシテ受理シ且ツ其原因ヲ同  
 フスル公訴ノ判決ヲ爲シタレハ特リ私訴ノミチ判決スルヲ得サル  
 ノ理ナキヲ以テナリ

第二百一條 被告人有罪ト爲リタルトキハ裁判所ノ職權  
 ナ以テ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔ス

可キ言渡ヲ爲ス可シ  
免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴ニ關スル  
訴訟費用ハ國庫之ヲ負擔ス  
私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ從  
フ

(解釋)本條ハ訴訟費用ノ負擔者ヲ定メタルモノナリ

第一項被告人有罪ト爲リタルトキハ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部  
又ハ一分ヲ負擔ス可キ言渡ヲ爲スモノトセリ被告人有罪ト爲リシ  
トキハ費用ノ全部ヲ負擔セシメテ可ナルカ如シト雖本條ハ其一分  
ヲ負擔セシムル場合アルコトヲ規定セリ蓋シ刑ノ言渡ヲ受クル者  
ノ如キハ其曲固ヨリ本人ニアリト雖又檢事判事等ニ於テ無益ノ証  
人鑑定人等ヲ呼出シ又ハ檢事上訴シテ敗訴スル等ノ事アレハ官ニ  
於テモ亦過失アリト云フヘシ故ニ是等ノ場合ニハ其官ノ過失ニ出

ツル費用迄モ被告人ニ負擔セシムヘカテサルヲ以テ官之ヲ擔當セ  
サルヲ得ス由之必シモ被告人ニ全部ノ負擔ヲ爲サシメサルノ規定  
トセラレシモノナリ

第二項被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ其訴訟  
ハ官ノ過失ニ出テタルモノナレハ自己ノ過失ヨリ來リシ損害ハ自  
己之ヲ負擔ス可シトノ原則ニ因リ其費用ハ國庫之ヲ負擔スルコト  
、定メラレシナリ

第三項私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フト  
セリ民事訴訟法ノ規定トハ全法第七十二條乃至第八十六條ノ規則  
ヲ云フモノニシテ其箇條多ク茲ニ一々説明スルヲ得スト雖モ要ス  
ルニ何レモ皆權利ヲ侵害シテ他人ニ加ヘタルモノハ之ヲ償ハ  
サル可カラストノ原則ヲ適用シテ規定シタルモノニ外ナラス尙ホ  
詳細ハ全法ニ就テ見ルヘシ

第二百二條 被告人有罪ト爲リタルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物ハ所有者ノ請求ナシト雖之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ沒収ニ係ラサル差押物件ヲ所有者ニ還付スルコトヲ定メタルモノナリ

本條ハ刑法第四十八條ヨリ出テタルモノニシテ贓物犯人ノ手ニ在ルトキ之ヲ差押ヘタル物件ト解釋セサルヘカラス若シ然ラサレハ訴ナクシテハ理セストノ原則ニ背キタルモノト云フヘシ又彼ノ公商公買ノ手ヲ經タル物ノ如キハ刑法附則ニ依リ所有者ハ物權ニヨリ直ニ之ヲ追索スルヲ得ス必ス其價ヲ償ハサルヘカラサレハ裁判所モ亦直チニ所有者ニ還付スルノ權ナカルヘキニ何人ノ手ニ在ルヲ問ハス裁判所ニ於テ差押ヘタル物件ハ總テ所有者ニ還付スルモノトスルトキハ甚ダ不都合ノモノト云ハサルヘカラス故ニ本條ハ全

ク贓物犯人ノ手ニ在ルヲ差押ヘタルモノニシテ裁判ヲ用ヒス裁判所ノ命令ニヨリ所有者ニ下付スル場合ヲ規定シタルモノト解セサルヲ得ス

第二百三條 刑ノ言渡ヲ爲スニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ明示シ且犯罪ノ証憑ヲ明示ス可シ  
無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦其理由ヲ明示ス可シ

(解釋)本條ハ刑ノ言渡ヲ爲ス規則ヲ定メタルモノナリ

此刑ノ言渡ヲ爲スニハ必ス事實ノ理由ト法律ノ理由ト及ヒ犯罪ノ証憑ヲ明示セサルヘカラス事實ナルモノハ公訴ノ原因ニシテ公訴ハ此原因ヲ明カニシ刑ノ適用ヲ求ムルモノナレハ其公訴ノ裁判ヲ爲スニモ其根據タル事實ニ因テ法律ヲ擬スルモノナリ然ラハ即チ刑ヲ言渡スニハ其本タル事實ノ理由ヲ明示シ而シテ法律ニ依ル理

由ヲ明示スルハ理ノ然ラシムル處ナリ若シ之ニ反シテ事實ノ理由  
ヲ明カニセサルキトハ其裁判タル根據ヲ失ヒ又法律ノ理由ヲ明カ  
ニセサルトキハ法律ヲ適用スル所以ヲ知ル能ハスシテ管ニ裁判ノ  
体裁ヲ失フノミナラス裁判官ノ專横ナル判決ヲ爲スモ之ヲ知ルヘ  
カラサルカ故ナリ又犯罪ノ證據ヲ明示スルハ此證據ハ事實ヲ証明  
スル根原ニシテ法律ヲ適用スル標準ナレハ必ス之ヲ明白ナラシメ  
カルヘカラス若シ否ラサレハ其犯罪タルヤ否ヤ明カナラサレハナ  
リ

第二項ハ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲ストキモ以上ノ如ク事實ト法律  
トノ理由ヲ明示スルコトヲ定メタリ然ルニ無罪免訴ノ場合ハ其無  
罪タリ又ハ免訴タルノ理由ヲ明カニスルモノニシテ刑ノ言渡ノ場  
合トハ正反對ノ結果ヲ來スモノナリ

### 第二百四條 判決ノ言渡ハ辨論ヲ終リタル後即日又ハ次

ノ開廷日ニ之ヲ爲ス可シ

判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ爲ス其判決ノ  
理由ハ判決ノ言渡ト同時ニ之ヲ朗讀シ又ハ口頭ニテ其  
要領ヲ告ク可シ

(解釋)本條ハ判決ノ言渡方ヲ定メタルモノナリ

第一項ハ辨論終結シタルトキハ即日又ハ其次ノ公判開廷ノ日ニ判  
決ノ言渡ヲ爲スコトニ制限ヲ設ケタルモノナリ判決ノ文字ハ本法  
中所々ニ散見スル處ナリ故ニ今其判決ノ何タルヲ論スレハ即チ判  
決トハ訴ヘラレタル事件ノ一部若タハ全部ニ對シテ裁判官ノ與フ  
ル才斷ナリ凡ソ人ノ訴訟ヲ起ス所以ノモノハ皆其判決ヲ得テ以テ  
其對手ヲシテ己ノ權利ヲ遵奉セシメント欲スルニ因ル故ニ此訴訟  
法中ニ規定スル諸種ノ法則ハ此ニ至ル準備ノモノタルニ過キスト  
云フヲ得ヘシ

第二項ハ言渡ノ方式ニシテ別ニ説明ヲ要セス

(本條ハ治罪法ニ規定ナキ新設ノ條項ナリ是重モナル改正ノ第二十四ナリ)

第二百五條 判決ノ原本ニハ其裁判ヲ爲シタル裁判所年月日其事件ニ于與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載シ判事裁判所書記共ニ署名捺印ス可シ

解釋本條ハ判決ノ原本ノ式ヲ定メタルモノナリ

本條ノ規定ハ判決ヲシテ正確ナラシムルニ過キサレハ別ニ説明ヲ爲サス

第二百六條 訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムル又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求メヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時間内ニ之ヲ下付ス可シ

(解釋)本條ハ訴訟關係人判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルヲ得ヘキ

コトヲ定メタルモノナリ

訴訟關係人ハ自己ノ費用ヲ以テ判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルヲ得ヘシ此正本トハ原本ニ依リテ之ヲ作り謄本トハ原本ノ寫本ナリ又抄本トハ原本ノ要領ヲ抜書シタルモノナリ

通常ノ場合ハ此正本謄本ヲ下付スルニ期限ナキヲ以テ其時ノ便宜ニ從フヘケレトモ訴訟關係人上訴ヲ爲サノ爲メ之ヲ求ムルトキハ其上訴期間ハ僅々數日ナルヲ以テ多少ノ時間ヲ費セハ上訴期間ヲ失ハシルルノ恐アルニヨリ本條ノ但書ニ於テ書記ニ二十四時間内ニ下付スルコトヲ命ジタリ

第二百七條 對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長ヨリ其言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其判決ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知シ又關席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ其判決ニ對シ



故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載スヘシ  
若シ其告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上  
訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止ス

(釋解)本條ハ刑ノ言渡ヲ爲ストキ裁判長ノ心得方ヲ示シタルモノナ

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ前條ノ判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムル  
ヲ得ヘキコト及ヒ上訴故障ヲ爲スヲ得ヘキコト又ハ其期間ヲ裁判  
長ヨリ告知ヲ爲サ、ルヘカラズ若シ然ラサルトキハ裁判長ノ過失  
ニ販シ其判決言渡ハ執行力ヲ生セズ更ニ其告知ヲ爲ス迄ハ上訴故  
障ノ期間ハ停止トナリ何時ニテモ之ヲ爲シ得テ判決ハ未確定ノ儘  
ナルヘシ

以上ノ告知ヲ爲スニハ對席裁判ナルトキハ裁判長口頭ヲ以テ之ヲ  
告ケ欠席裁判ナルトキハ判決書ニ記載ス可キナリ此故障トハ欠席

裁判ニ對スル一ノ申立ニシテ其詳細ハ第二百二十七條以下ニ於テ

解説スヘシ

### 第二百八條 裁判所書記ハ公判始未書ヲ作り左ノ事項其

他一切ノ訴訟手續ヲ記載ス可シ

第一 公ニ辨論ヲ爲シタルコト又ハ公開ヲ禁シタルコ  
ト及ヒ其事由

第二 被告人ノ訊問及ヒ其陳述

第三 証人鑑定人ノ供述及ヒ宣誓ヲ爲シタルコト若シ  
宣誓ヲ爲サ、ルトキハ其事由

第四 證據物件

第五 辨論申異議ノ申立アリタルコト其申立ニ付檢事  
其他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ裁判

第六 辨論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメ

タルコト

(解釋)本條ハ公判始末書ヲ作ル手續ヲ定メタルモノナリ

此始末書ハ上訴アリタル場合ニ於テハ上訴裁判所ハ之ヲ以テ事實ト爲シ其根據トシテ裁判スルモノナリ又私訴若クハ再審ノ場合ニ於テモ全様ナルカ故ニ實ニ要用ノモノニシテ最モ正確ナラサルヘカラサルナリ

第一訟廷ハ必ス之ヲ公開シ公衆ニ傍聽ヲ許スヲ以テ原則トス故ニ其公ニ辨論セシコト及ヒ裁判所構成法開廷ニ定ムル理由ニヨリ公開ヲ禁スルコトアリ之ヲ禁シタルコト及ヒ其事由ヲ記載スルモノナリ

第二乃至第五ニ掲クル條件モ其必要ナルコト更ニ辨解ヲ待タスシテ明カナリ又第六ノ辨論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコトノ必要ナルハ第九十八條ニ於テ詳述シタレハ今復タ

爰ニ贅セス

第二百九條 公判始末書ニハ前條ニ記載シタル事項ノ外

裁判ヲ爲シタル裁判所年月日裁判長陪席判事檢事及ヒ

裁判所書記ノ官氏名ヲ記載ス可シ

辨論數日ニ涉ルトキハ其旨及ヒ同一ノ判事出席シタル

コトヲ記載ス可シ

辨論中補充判事ヲシテ代ラシメタルトキハ其旨ヲ記載

ス可シ

(解釋)本條ハ前條ト同シク公判始末書ニ記載ス可キ要件ヲ規定シタルモノナリ

公判始末書ニ裁判ヲ爲シタル裁判所年月日裁判長陪席判事檢事裁判所書記等ヲ記載スルハ公廷ノ法式及ヒ其管轄ト裁判ヲ爲シタル年月日等ヲ明カニスルモノニシテ其趣旨ハ前條ニ述ヘタル如シ

辨論數日ニ涉ルコト及ヒ同一ノ判事出席シタルコトヲ記スル所以  
ハ合議裁判ニ於テハ悉ク判事ヲ新ニスルコトヲナルヘシト雖單獨  
裁判ニ於テハ其判事差支アリテ他ノ判事代リタルトキハ判事ヲ一  
變スルヲ以テ辨論ヲ新クニセサル可カラサル等ノ必要アリ又補充  
判事トハ裁判所構成法第二百十條ニ依リ四日以上引續クヘキ見込  
ミアル審問ニ於テ其裁判所判事中ニ裁判所長ノ命スル處ノ職員ナ  
リ

### 第二百十條 公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整

頓シ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閲シ若

シ意見アルトキハ其紙尾ニ記載ス可シ

(解釋)本條ハ公判始末書ヲ作ル日限及ヒ之ヲ正確ニスル方式ヲ定メ  
タルニ過キス

### 第二百十一條 判決及ヒ公判始末書ノ原本ハ訴訟録ニ添

付シ其裁判所ニ保存ス可シ若シ上訴アリタルトキハ之  
ヲ上訴裁判所ニ送付ス可シ

(解釋)本條ハ訴訟書類保存ノ方法及ヒ上訴アリタルトキ上訴ノ裁判  
所へ送付スヘキコトヲ定メタルモノニシテ他ニ解説スルモノナシ  
(治罪法ニハ裁判長書記ハ裁判言渡書及ヒ公判始末書ノ騰本ニ認印  
シ之ヲ上訴書類ニ添フ可シトアリシカ本法ニ於テハ右ノ如ク規定  
セラレタリ是レ重モナル改正ノ第二十五ナリ)

### 第二章 區裁判所公判

(解釋)本章及ヒ次章ハ公判ニ付テノ規則ヲ定メタルモノナリ治罪法  
ニハ違警罪公判輕罪公判重罪公判ノ三個ヲ規定セシカ此訴訟法ニ  
於テハ之レヲ改メ區裁判所公判地方裁判所公判ノ二個ト爲シ又重  
罪ノ公訴狀ヲ作ルコトヲ廢シ其他第二百三十五條乃至第二百四十

一條ニ於テ治罪法ノ規定ニ若干ノ改正アリ(是レ重モナル改正ノ第二十六ナリ)

第二百十二條 區裁判所ハ左ノ場合ニ於テ其管轄ニ屬ス

ル違警罪及ヒ輕罪ノ公判ヲ受理ス

第一 檢事ノ起訴アリタルトキ

第二 豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ

リタルトキ

(解釋)本條ハ區裁判所カ公訴ヲ受理スル場合ヲ規定シタルモノナリ  
第一項ハ當該檢事ノ起訴ニシテ別ニ解説スルモノナシ第二項豫審判事ヨリ事件ヲ移スハ第六十六條第六十七條ノ場合ヲ云ヒ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ストハ第二百九十條ニ規定スル如ク上告裁判所ニ於テ破毀シタル事件又ハ第三十四條第三十五條ノ公安又ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ移サレ第三十一條ノ申請ニ付キ管轄ノ指定

アリシ場合等ヲ指シタルモノナルヘシ

第二百十三條 檢事ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ

呼出狀ヲ發ス可キユトテ裁判所ニ請求ス可シ

裁判所ハ裁判所書記ヲシテ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發セ

シム可シ

(解釋)本條ハ檢事被告人ニ呼出狀ヲ發スルコトヲ請求スヘキコト及ヒ裁判所ハ書記ニ命シテ呼出狀ヲ發セシムルコトヲ規定シタルニ過キス

第二百十四條 呼出狀ニハ呼出ヲ受クヘキ者ノ氏名職業

住所出廷ノ場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且被告事件違警

罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ナルトキハ代人ヲシテ出廷

セシムルユトテ得ヘキ旨ヲ記載ス可シ

若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件

ニ付キ取調ヲ受ケサルトキハ辨護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

(解釋)本條ハ呼出狀ノコトヲ示シタルモノナリ

呼出狀ノ式ニ付テハ先ニ解説シタル處ナレハ復説ノ要ナシ罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪又ハ違警罪ニ付代人ヲ許スハ事件最モ輕易ナレハ必シモ本人ヲ出廷セシムルニ及ハサルヲ以テナリ

第二項呼出狀ニ被告事件ノ記載ナキトキ被告人未タ其事件ニ付一度モ取調ヲ受ケサル場合ニ於テ二日間ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ許シタルハ十分ニ辨護權ヲ保護シ不意ヲ打チ出拔ニ訊問スルカ如キコトナカラシメメンカ爲メナリ此被告人カ二日間ノ猶豫ヲ請フトキハ必ス之ヲ許サ、ルヘカラス許否ハ裁判所ニ在ルカ如キモノニアラサルヘシ何トナレハ法律ノ命シタル規定ニ背キ記載セサルハ其裁判所ノ過失ナリ此過失以テテ被告人ノ利益ヲ害スルヲ得サレハナ

第二百十五條 呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

(解釋)本條ハ呼出狀ノ送達ト出頭ノ猶豫期間ヲ定メタモノナリ此猶豫ノ期間ヲ與フルハ被告人ヲシテ辨護ノ準備ヲ爲サシメ且ツ家事等ノ不都合ナカラシメメンカ爲メニシテ前條第二項ノ趣旨ト異ルコトナシ

第二百十六條 判事ハ豫審ヲ經サル被告事件急速ヲ要スルトキハ公判ニ取掛ル前檢証處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス

(解釋)本條ハ公判ノ判事檢証處分ヲ爲スコトヲ得ル規則ヲ定メタル

モノナリ

豫審ヲ經タル事件ナレハ十分ノ取調ヘアルヲ以テ更ニ檢証等ヲ爲

スノ要ナシト雖豫密ヲ經サル事件殊ニ急速ヲ必要トスルモノニ在  
リテハ速カニ臨檢搜索差押ヘ等ノ處分ヲ爲サ、ルニ於テ終ニ證據  
ノ湮滅スルコトアルヲ以テ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス檢  
証ノ處分ヲ爲スコトヲ得ト定メラレタリ但此場合ニ於テモ第七十  
八條第三項及ヒ第百四條ノ規定ニ從フヘキハ勿論ナリトス

第二百十七條

証人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クト

モ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ又呼出ヲ受ケ  
スシテ出頭シタル者ト雖異議ノ申立ナキトキハ裁判所  
ニ於テ証人トシテ其供述ヲ聽クコトヲ得

(解釋)本條ハ証人呼出ノ規則ヲ定メタルモノナリ

被告人ノ呼出ハ二日ノ猶豫ヲ與ヘ証人ニハ二十四時ノ猶豫トセシ  
ハ抑々故アルナリ被告人ハ家事取纏メノ都合アリ又辨護ノ方法ヲ  
モ準備セサルヘカラス然ルニ証人ハ唯々家事ノ都合ヲ附ケル迄ニ

テ辨護ノ方法等ヲ考フルノ必要ナキノミナラス証人ハ却ツテ有ノ  
儘ニ供述スルヲ好トス是被告人呼出ノ猶豫期間ヨリモ証人ノ猶豫  
期間ヲ短縮セラレタル所以ナリ又呼出ヲ受ケス自ラ証人ト名乘リ  
テ出廷シタルモノト雖異議ヲ申立ナキトキハ証人トシテ供述ヲ聽  
クコトヲ得ヘキナリ願フニ是等ハ自ラ事ヲ好ミ証人トシテ出廷シ  
タルモノナレハ或ハ爲メニスル處アリテ然ルモノ多キニ居ルヘケ  
レトモ被告人等ヨリ異議申立ナク又不都合ト認ムヘキ廉ナキニ於  
テハ証人トシテ其供述ヲ聽クハ敢テ妨ヲナキモノトス

第二百十八條

判事ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住

所出生ノ地ヲ問フヘシ

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

(解釋)本條ハ公廷ニ於テ公判ヲ行フ最初ノ手續ヲ定メタルモノナリ

被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フハ被告人ノ人違ナ

キヤ否ヤ再犯ナルヤ否ヤ刑法上宥恕ヲ與フヘキモノニアラサルヤ  
等ヲ明カナラシメンガ爲メナリ此訊問終ルト直チニ檢事ハ被告事  
件ヲ陳述セサルヘカラス是公訴ヲ起シタル原因ヲ述フルモノナリ

第二百十九條 判事ハ被告事件ニ付被告人ヲ訊問ス可シ

必要ナル調書其他証憑書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又  
証人ノ供述ヲ聽キ其他證憑ノ取調ヲ爲ス可シ

若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢事民事原告人  
ノ異議ナキトキハ他ノ証憑ヲ取調フルニ及ハス

(解釋)本條ハ前條ニ引續キ被告人ヲ訊問シ及ヒ証憑等ヲ取調フル規  
則ナリ

判事ハ前條ノ訊問及ヒ檢事ノ陳述ニ續イテ被告人ニ對シ被告事件  
ノ訊問ヲ爲シ而シテ必要ナル調書其他証憑書類ヲ書記ニ命シテ朗  
讀セシメ又証人ノ供述ヲ聽キ其他証憑ノ取調ヘテ爲ス可キモノト

ス是レ罪ノ有無ニ付キ判決ヲ爲ス十分ノ材料ヲ得以テ裁判ノ公平  
ヲ保タンカ爲メナリ然レトモ若シ被告人ニ於テ其事ヲ承認シ自白  
ヲ爲シタル場合ニ於テハ檢事又ハ民事原告人カ異議ヲ稱フルコト  
ナキトキハ他ノ証憑ヲ取調フルニ及ハサルナリ其故ハ本件ニ付テ  
ハ証憑ハ已ニ十分ト看做シ他ハ無用ナル物件ニ過キスシテ爲メニ  
手数ト費用ヲ増スノミナレハナリ自白ニハ被告人カ自ラ進ンテ自  
己ニ不利益ナル事實ノ眞確ナルコトヲ承認スルモノアリ又ハ他ノ  
証憑ヲ以テ訊問ヲ受ケ白狀スルモノアリ

第二百二十條 証憑調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ  
付キ意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ其辨護人ハ答辨ヲ爲スコトヲ得  
檢事被告人及ヒ辨護人ハ送ヒニ辨論ヲ爲スコトヲ得但  
辨論ノ最終ニハ被告人又ハ辨護人ヲシテ供述セシム可

シ  
〔解釋〕本條ハ被告事件ノ事實及ヒ法律適用上ニ付辨論ノ規定ヲ設ケタルモノナリ

証憑調ノ後檢事ハ被告事件ニ付其事實ヲ証明シ及ヒ法律ノ適用ニ關シ意見ヲ陳述セサルヘカラス事實ヲ證明スルハ公訴ノ實行ニシテ法律ノ適用ハ公訴ノ目的ナリ

檢事被告人及ヒ辨護人ハ犯罪ノ事實ニ付キ迭ヒニ辨論ヲ爲シ又法律適用上ニ付テモ全様辨論ヲ爲スヲ得ヘキナリ即チ代辨論ハ檢事ハ第一條ニ定メタル如ク犯罪ヲ証明シ刑ノ適用ヲ目的トシテ論告シ被告人及ヒ辨護人ハ被告事件ニ利益ト爲スヘキ事實ヲ舉ケ利益トナルヘキ法律ノ適用ヲ求ムル爲メ十分ニ辨護權ヲ擴張シテ辨明スルモノニシテ其趣旨タル裁判ノ公平ト信用トヲ保持シ檢事ハ公益ノ爲メ職務ヲ盡シ又被告人ヲシテ其裁判ニ對シ遺憾ナカラシムルニ在リ

又最終ニ被告人辨護人ヲシテ供述セシムルハ證據法ノ順序ニシテ被告人ハ證據ノ爲メ壓セラレタリトノ憾ナカラシメンカ爲メナリ

第二百二十一條 公訴ニ付キ辨論終リタル後民事原告人ハ被害ノ事實ヲ證明シ且私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ

被告人辨護人及ヒ民事担当者ハ答辨ヲ爲スコトヲ得

〔解釋〕本條ハ私訴ノ裁判ニ關スル辨論ノ規定ナリ

公訴ニ付テノ舉証ノ責任者ハ檢事ナレハ前條ニ規定スル如ク先ツ檢事ニ於テ事實ヲ證明セサルヘカラスト雖私訴ハ第二條ニ定ムル通り犯罪ニ因リ生シタル損害贓物ノ返還ヲ目的トシ被害者ニ屬スルモノナレハ私訴者即チ民事原告人ニ於テ舉証ノ責任ヲ負フモノナリ故ニ民事原告人ハ公訴ニ付キ辨論終リタル後ニハ被害ノ事實



ヲ証明シ而シテ私訴ノ目的トシテ其請求スル處即チ損害賠償ナレ  
ル其金額贓物ノ返還ナレハ其物件等ヲ明カニ陳述セサルヘカラス  
但私訴ハ被害者ノ私權利ニ屬スレハ何時ニテモ之ヲ拋棄スルコト  
ヲ得ルモノトス

被告人辨護人及ヒ民事擔當人ノ私訴ニ付キ答辨ヲ爲スコトヲ得ル  
ハ是亦自己ノ權利ヲ行フモノニシテ當然ノ理ナレハ敢テ解説スル  
ヲ必要トセス

**第二百二十二條** 被告事件其裁判所管轄ニ屬セサルトキ  
ハ判決ヲ以テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ若シ被告人勾留  
ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ  
本條ノ場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ  
前勾留狀ヲ存シ又ハ新タニ勾留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事  
ニ交付ス可シ

〔解釋〕本條ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ  
地方裁判所ニ於テ受理シタル被告事件カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル  
モノナルコトヲ發見シタルトキト雖第一審ノ判決ヲ爲スヘキハ第  
二百四十條ノ規定スル處ナリ是大ハ小ヲ容スルノ原則ニ基クモノ  
ナリ然リト雖小ハ以テ大ヲ容スルヲ得サルモノナレハ區裁判所ニ  
於テ受理シタル事件他ノ上級裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナルトキ  
ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ其事件ニ付裁判ヲ爲ス能ハス是本條ノ規定  
アル所以ナリ

區裁判所ハ管轄權ヲ有セサル事件ニ付管轄違ノ言渡ヲ爲シタルト  
キハ其裁判所ハ既ニ其事件ノ關係ヲ脱シタルモノナレハ本則ヨリ  
云フトキハ他ノ裁判所ノ處置スヘキ事件ハ之ニ干涉スヘキニアラ  
サルヲ以テ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ放免ノ言渡ヲ爲サ、ルヘ  
カラス然リト雖斯ク本則ヲ嚴守スルトキハ証憑ヲ湮滅シ又ハ被告

人逃走スル等ノ恐レアレハ勾留ヲ必要ナリト認メタルトキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ之ヲ發シテ其事件ヲ檢事ニ交付ス可キトノ變則ヲ設ケラレタリ

第二百二十三條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬シ且犯罪ノ證憑十分ナルトキハ判決ヲ以テ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ刑ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ  
區裁判所ニ管轄權アリテ且ツ犯罪ノ證憑十分ナルトキハ刑ノ言渡ヲ爲スモノニシテ公訴ノ目的ヲ遂ケタル場合ナリ

第二百二十四條 犯罪ノ證憑十分ナラス又ハ被告事件罪ト爲ラサルトキハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シ又第六十五條第三號以下ノ場合ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ  
犯罪ノ證憑十分ナラストハ罪ノ疑ハシキモノ、謂ニシテ疑ハシキハ輕シセヨ一無辜ヲ罪セヨリハ竅口不經ニ失セヨトノ原則ニヨリ無罪ト爲スナリ又罪ト爲ラストハ一般ノ不論罪特別ノ不論罪等刑法上ニ明記シタルモノ及ヒ其他全ク犯罪ヲ構成セサル所爲ヲ云フモノニシテ是亦無罪ノ言渡ヲ爲スハ論ヲ待タズ  
免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ハ第六十五條第三號以下ニ規定スル公訴ノ時効ニ罹リタルトキ確定判決ヲ經タルトキ等本來公訴ヲ起スヘキモノニアラス亦公訴トシテ受理スヘキモノニモアラサル事件ナレハ之ヲ免訴トシテ言渡ヲ爲スナリ

第二百二十五條 前二條ノ場合ニ於テハ私訴ニ付キ其請求價額ノ多寡ニ拘ハラズ判決ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ私訴ノ判決ヲ爲ス場合ヲ定メタルモノナリ

本條ハ第四條ニ依リ公訴附帶ノ私訴ヲ起シタルトキハ被告人有罪  
タルト無罪タルト將タ免訴ノ言渡ヲ受ケタルトナ問ハス又區裁判  
所ノ裁判權ヲ超過スル全額ナリト雖其裁判所ニ於テ判決ヲ爲スヘ  
キナリ是レ私訴ハ犯罪ト發生ヲ共ニスルモノニアラスシテ公訴ノ  
原因タル事實ト發生ヲ共ニスルモノナルニ因ルコト第四條ノ解ニ  
詳述セシ處ナリシカ本條ニ至リテ愈々明瞭ヲ加ヘタルナリ(尙ホ本  
條第四條ノ解ヲ參看シテ其意ノアル處ヲ知ルヘシ)

### 第二百二十六條

呼出ヲ受ケタル被告人又ハ罰金以下ノ  
刑ニ該ル可キ事件ニ付キ其代人公判ノ期日ニ出頭セサ  
ルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽キ關席判決ヲ爲ス可シ  
私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ  
欠席判決ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ欠席裁判ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノナリ

欠席判決トハ對席判決ニ對スルノ語ニシテ口頭辨論ノ期日ニ出席  
シタル原被告中ノ一方ノ申立ノミヲ聞キテ爲ス所ノ訴訟ニ對スル  
裁判ヲ云フ

片言以テ獄ヲ折ムルノ非ナルハ別ニ辨明ヲ待タスシテ明カナリ欠  
席判決ハ片言ニ依リテ獄ヲ斷スルモノナリ故ニ亦之ヲ正當ナリト  
云フコトヲ得サルカ如シ然レトモ一方カ懈怠ニ依リ又ハ故テニ欠  
席スルトキハ他ノ一方ヲシテ期日ノ延引ヲ爲サシメサルヘカラス  
ト爲スハ之ヲ正當ナリト云フヲ得サルヘシ又刑事ニ在リテハ公ケ  
ノ秩序ヲ回復スル爲メ一時モ早ク犯罪者ヲ處分セサルヘカラサル  
ニ被告人カ故意若クハ懈怠ヲ以テ出頭セサルカ爲メニ裁判ヲ遷延  
スルコト、爲ストキハ實ニ際限ナクシテ終ニ時効ヲ成就セシムル  
ニ至ルヘシ是レ欠席裁判ハ片言ニヨリ以テ獄ヲ斷スルモノナルニ

モ拘ハラス本法ニハ欠席裁判ノ制ヲ設ケラレシ所以ナリ然リト雖  
欠席裁判ハ固ト正則ノモノニアラサルハ亦本法ノ認ムル處ニシテ  
次條以下ニ於テ之カ制限ヲ設ケ又故障ノ制等ヲ規定シテ其弊害ヲ  
救済スル方法ト爲サシメタリ

第二項ノ民事訴訟法ノ規定トハ全法第二百四十六條乃至第二百六  
十五條ニ定メル規則ニシテ詳クハ全法ニ就テ研究スヘシ

第二百二十七條 禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付被告人出

頭セスト雖豫審終結ノ言渡書又ハ公判呼出狀ヲ本人ニ  
送達シタル証アルニ非サレハ欠席判決ヲ爲ス可カラス  
豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スル  
コト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニ於テ猶豫ノ期間ヲ  
定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキハ欠席判決ヲ爲ス  
可キ告知書ヲ其親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地

ノ市町村長ニ送達ス可シ若シ其本籍若クハ最後ノ住所  
ノ地ノ分明セサルトキハ同上ノ告知書ヲ少クトモ一月  
間裁判所ノ掲示板ニ貼付シテ公示ス可シ

(釋解)本條ハ欠席判決ヲ爲スニ付テノ手續ヲ定メタルモノナリ

欠席裁判ハ前ニモ述ヘル如ク正則ニアサレバ已ムテ得サル場合  
ニ非サレハ之ヲ爲スヲ得ベカラス故ニ法律ハ務メテ正則ニ依ラシ  
メンコトヲ欲シテ本條ニ定ムル如ク豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ  
呼出狀ヲ本人ニ送達シタルノ証アルモ尙ホ本人出廷セサルトキ又  
ハ第二項ニ定ムル如ク豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人  
ニ送達スルコト能ハサル(被告人逃走若クハ潜匿シタル場合等)以  
テ場合ニ於テハ裁判所ハ猶豫ノ期間ヲ與ヘテ其期間ニ被告人カ出  
頭セサルトキニハ欠席判決ヲ爲スヘキ旨ヲ書シタル告知書ヲ本人  
ノ親屬又ハ本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可キナ

リ若シ其本籍若シハ最後ノ住所ノ地判然セサルトキハ右告知書ヲ才判所ノ掲示板ニ貼リ付ケ少クトモ一月間公示ヲ爲ス可キモノトス以上ノ如ク懇到ナル手續ヲ爲シタルモ被告人ニ於テ出頭セサルトキハ法律ハ被告人ハ自ラ辯護權ヲ拋棄シ欠席裁判ノ已レニ不便利ナルヲ知リ之ニ甘ンシテ出頭セサルモノト斷定シ欠席ノ儘判決ヲ爲スモノナリ但本條ニハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付被告人出頭セスト雖モ云々トアレハ罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ニハ本法ノ規定ヲ適用セサルカ如シ然レトモ是等ノ犯罪ニ於テモ欠席裁判ノ變則ヲ直チニ適用スルハ法律ノ精神ニアラサルヲ以テ呼出狀ヲ送達シタルノ証若シハ其他ノ手續ヲ書シ本人出頭セサルトキニ於テ已ムヲ得ス欠席判決ヲ爲スモノナルヘシ

**第二百二十八條 欠席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ欠席者ニ送達ス可シ**

**欠席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ルコトヲ得**

(解釋)本條ハ欠席判決書ヲ送達スル規則ヲ定メタルモノナリ判事ハ判決ヲ爲セハ其職務ヲ盡シタルモノニシテ已ニ其事件ハ判事ノ手ヲ離レタルモノナリ故ニ判事カ自己ノ職權ヲ以テ判決書ヲ送達スルコトナシ是レ本條ニ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ欠席者ニ判決書ヲ送達スルノ規定アル所以ナリ欠席判決ハ固ト變則ノ裁判ナレハ法律ハ可成正則ニ復センコトヲ希望スルモノナリ故ニ此判決ヲ受ケタル者ハ次條ニ定ムル期間ニ於テ其判決ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ

**第二百二十九條 故障申立ノ期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル判事及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ欠席判決ノ送達ヲ以テ始マリ禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判**

決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ始マル

(解釋)本條ハ故障申立期間ト及ヒ其起算方ヲ定メタルモノナリ  
故障申立ノ期間ハ三日ト定メ罰金以下ノ刑ニ該ル欠席判決又ハ私訴ノ欠席判決ニ就テハ其判決ノ送達ヲ以テ期間ノ起算ヲ始ムルモノトス是レ罰金以下ノ微罪ニ在リテハ代人ヲ許ス位ノモノナレハ本人逃走シ又ハ潜匿スル等ノコトナケレハ必ス本人ノ確知シタルノ証ヲ要ス唯々判決書ノ送達ヲ以テ本人ノ知得シタルコトヲ推定スルナリ其送達トハ第十九條ニ從ヒ民事訴訟法ニ規定スル書類送達ノ規則ニ依リ本人若クハ其親屬又ハ其他本人ニ知レ得ヘキ近親ノ者等ニ送達シ若シ是等ノ者ニ送達スル能ハサルトキハ公示送達ノ規則ニヨリテ裁判所ノ揭示札ニ貼付シ及ヒ新聞紙ニ掲載スル等ノ方法ヲ云フナリ(第十九條及ヒ民事訴訟法第三百三十六條乃至第三百

五十八條參看)然リト雖禁錮ノ刑ヲ言渡シタル欠席判決ニ至リテハ本人判決書ノ送達ヲ受ケタルカ又ハ第三百十九條第二項ノ規則ニヨリ判決ノ執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタルカ必ス本人カ之ヲ確知シタルノ証アルコトヲ要ス其故ハ禁錮ノ刑ニ該ル犯人ニ在リテハ多クハ逃走潜匿等ノ事ヨリシテ闕席スルモノナレハ唯々送達ノ手續ノミニテハ本人ノ知リタルヤ否ヤ不分明ニシテ殊ニ其事件モ重大ナレハ其取扱モ鄭重ヲ加ヘ必ス本人ノ知得シタル証アルニ非サレハ故障期間ノ進行ヲ始メサルモノトセリ故ニ禁錮ノ刑ヲ言渡サレタル闕席者ハ以上ノ理由ニヨリ判決アリタルコトヲ知ラサル間ハ其判決ハ確定スルコトナク事件時効ニ罹ル迄何時コトモ故障ノ申立ヲ爲スヲ得ルナリ又何レノ場合ニ於テモ第二百七條ニヨリ判決書ニハ故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載セサルヘカラス

第二百三十條 故障ヲ申立テントスル者ハ欠席判決ヲ爲

シタル裁判所ニ其申立書ヲ差出ス可シ

(解釋)本條ハ故障ヲ申立ル裁判所ヲ定メタルモノナリ

故障ハ上訴ト異リ闕席ノ儘判決セラレタル事件ニ對シ故障ヲ申立自ラ辨護ノ權利ヲ伸張シテ對席ノ裁判アランコトヲ請求スルモノナレハ上訴ノ如ク他ノ上級裁判所ニ申立ツルコトナク闕席判決ヲ爲シタル裁判所ニ申立ヲ爲ス可ク亦判事ニ於テモ同一ノ判事之ヲ裁判シ第四十條第四號ノ除斥ニハ關係セサルモノトス

第二百三十一條 裁判所ニ於テハ故障ノ申立アリタルコ

トヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ公判ニ付ス可キ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出ス可シ

(解釋)本條ハ故障アリタルコトヲ相手方ニ通知シ而シテ公判ノ準備ヲ爲ス手續ヲ定メタルモノナリ

故障アリタルコトヲ相手方ニ通知スルハ其訴訟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テナリ又故障ヲ受理シタルトキハ通常ノ規則ニ從ヒ公判ヲ開クモノナレハ其期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出サハルヘカラス

第二百三十二條 裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス

可キヤ否ヤ又故障ノ期間ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ棄却ス可シ

(解釋)本條ハ裁判所ニ於テ故障ヲ受理スヘキヤ否ヤヲ決定スルコトヲ定メタルモノナリ

故障ヲ申立アリタルトキ裁判所ハ職權ヲ以テ第一ニ故障ヲ許スヘキヤ否ヤ之ヲ換言スレハ闕席者ハ其判決アリシコトヲ全ク知ラザリシハ眞實ナリシヤ其故障ハ正當ノ事由アルモノナルヤ否ヤヲ審

案シ判決アリシヲ知ラサリシハ眞實ニシテ且ツ正當ノ事由アルモノトスレハ第二ニ闕席者カ之ヲ知リタルヨリ三日以内ニ其申立ヲ爲シタルヤ否ヲ調査シ其期間内ニ申立アリタルモノトスレハ次條ニ依リテ更ニ裁判ヲ仕直スモノナリ然レトモ右要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ棄却スルモノトス

第二百三十三條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ  
前項ノ場合ニ於テ故障申立人欠席シタルトキハ更ニ故障ヲ申立ルコトヲ得ス

(解釋)本條ハ故障ヲ受理シタルトキノ手續ヲ定メタルモノナリ  
前條ニヨリ故障ノ申立ヲ受理シタルトキハ其裁判所ニ本章ニ規定スル處ニ從ヒ裁判ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ故障申立人再ヒ闕席シタル場合ニ於テハ更ニ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルヲ許サズ是レニ故障ノ申立ヲ許ストキハ其判決ハ確定スルノ期ナク亦底止スル處ナクシテ終ニ裁判ノ信用ヲ失フニ至レハナリ

第二百三十四條 第二百四十七條第二百四十八條ノ規定ハ欠席判決ニ對スル故障ニモ亦之ヲ準用ス

(解釋)本條ハ天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ノ規定ハ闕席判決ノ故障ニモ準用スルコトヲ定メタルモノナリ其詳細ハ第二百四十七條及ヒ第二百四十八條ノ解ニ讓ル可シ

### 第二章 地方裁判所公判

(解釋)本章ハ地方裁判所公判ノ手續ヲ定メタルモノナリ

地方裁判所公判ハ地方裁判所第一審ノ訴訟手續ナリ裁判所構成法第二十七條ニ依レハ地方裁判所カ刑事訴訟ニ於テ第一審ノ裁判權ヲ有スルハ區裁判所ノ權限并ニ大審院ノ特別權限ニ屬セサル刑事



訴訟トアレハ違警罪及ヒ裁判所構成法第十六條第二號第三號ノ輕罪又ハ全法第五十條第二號ニ定メタル刑法第二編第一章第二章ニ掲ケタル重罪并ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノヲ除ク外一切ノ重罪ト輕罪事件ハ悉ク地方裁判所ノ管轄權ニ屬スルモノナリ

第二百三十五條 地方裁判所ニ於テハ豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判ニ因リ其管轄ニ屬スル輕罪及ヒ重罪ノ公訴ヲ受理ス  
又輕罪ニ付テハ檢事ノ起訴ニ因リ其公訴ヲ受理ス

(解釋)本條ハ地方裁判所公訴ヲ受理スル場合ヲ定メタルモノナリ  
重罪ハ必ス豫審ヲ經由シ又地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪モ多クノ場合ハ豫審ヲ求ムルモノナレハ豫審判事ヨリ公判ニ付スル言渡ニ因リ公訴ヲ受理スルヲ以テ最モ多キニ居ルモノトス上級裁判所

ヨリ事件ヲ移ス場合ハ第二百十二條ニ於テ詳述シタレハ爰ニ略ス  
第二項ハ檢事カ第六十二條第二號ノ規定ニ因リ豫審ヲ必要トセサル輕罪事件ヲ直チニ地方裁判所ニ公訴ヲ起シタル場合ナリトス

第二百三十六條 前章ノ規定ハ此章ニ別段定メナキモノニ限り地方裁判所ノ輕罪重罪ノ公判ニ準用ス

(解釋)本條ハ區裁判公判ニ付キ規定シタル條項ト本章ニ特定スルモノヲ除キ余ハ悉ク地方裁判所公判ニ準用ス可キコトヲ定メタルモノナリ

前章ニ定メナキモノハ以下ニ規定スル公判下ヲ調ヘノコト及ヒ被告ノ自由アルモ仍ホ証憑ヲ取調アルコト被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認ムルトキト雖第一審ノ判決ヲ爲スコト輕罪トシテ受理シタル事件重罪リナトスルトキ豫審ヲ爲サシムルコト等ハ本章地方裁判所ノ公判ニ付キ必要ノ規定ナレハ是等特別ニ定メ

タルモノヲ除キ余ハ皆前章ヲ準用スルモノニシテ條項ノ重複ヲ避ケンカ爲メナリ

第二百三十七條 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ且ツ被告人弁護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ可シ若シ弁護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ弁護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ被告人及ヒ弁護士ニ異議ナキトキハ弁護士一名ヲシテ被告人數名ノ弁護ヲ爲サシムルコトヲ得

書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ

(解釋)本條ハ重罪事件ニ付開廷前特ニ公判下ヲ調ヲ爲スコトヲ規定シタルモノナリ

重罪ノ公判ハ其事件重大ナルニ從ヒ取調ヘモ最モ鄭重ナラサル可

カラサルハ自然ノ理ニシテ法律ハ方メテ裁判ノ正確ヲ維持センカ爲メ重罪事件ニハ其公判廷ヲ開クニ先テ裁判長又ハ特ニ命シタル陪席判事ヲ以テ裁判所書記ヲ立會ハシメ一應被告人ヲ訊問シ且弁護人ヲ選任セサル場合ニ於テハ裁判長ハ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ弁護士中ヨリ之ヲ選任スヘキモノトス又被告人及ヒ弁護士ニ於テ異議ナキトキハ弁護士一名ヲシテ被告人數名ノ辨護ヲ爲サシムルコトヲ得可シ本條ノ規定ニヨレハ重罪事件ニ關シテハ必ス弁護人ヲ用井サル可カラズ若シ之ヲ用井サルトキハ其裁判ハ法律ニ背キタルモノナリ

第二項ハ裁判所書記ハ以上ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ルヘキコトヲ定メタルモノナリ是レ其訊問ノ事實ヲ証明スルモノニシテ又書記ノ職分ナリトス

第二百三十八條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリ

トスルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

(解釋)本條ハ必要ナル場合ニ於テ受命判事ヲシテ檢証處分ヲ爲サシムルコトヲ定メタルモノナリ

本條ハ第二百十六條ト稍々趣旨ヲ同フスト雖第二百十六條ハ豫審ヲ經サル被告事件ニシテ且ツ急速ヲ要スルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス公判判事ニ於テ檢証處分ヲ爲スコトヲ得ヘキ規定ナリ然ルニ本條ハ假令ヒ豫審ヲ經タル事件ナルモ亦急速ヲ要セサル場合ニ在リテモ裁判所ハ事實發見ニ必要ト認メタルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノナリ蓋シ第二百十六條ハ區裁判所ノ公判ニ適用スル規定ナレハ其事件ハ多クハ微罪トシテ受

理シタル事件ナレハ豫審ヲ經サルハ固ヨリ又被告人ノ取調ヘモ精密ナラス從ツテ被告人未ダ拘束ヲ受ケサルニ當リ其事件ヲ重要ト認メ急速ヲ要スルトキノ處分方ヲ定メタルモノナレハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セサルコトヲ主トシテ規定シタルモノナリ然ルニ本條ハ重難ナル輕罪以上ノ公判ニ適用スル規定ナレハ其事件モ豫審判事ヨリ移シタルモノ多ク取調モ精密ニシテ多クノ場合ハ被告人モ勾留ヲ受ケ居レリ緊急ノ處分ヲ要スルコト少シ然レトモ固ト重難ノ事件ナレハ鄭重ヲ加ヘ成ルヘク審理ヲ盡スコトヲ務メタリ又區裁判所公判ハ獨任制ニ出一人ノ判事之ヲ担任スルモノナレトモ地方裁判所ノ公判ハ合議制ナルヲ以テ檢証等ノ場合ニハ特ニ命ヲ受ケタル判事之ヲ担任シ而シテ其結果ヲ裁判所ニ向ツテ報告ヲ爲サ、ルヘカラス故ニ其方法ハ各々異ル處アレトモ要スルニ何レモ皆必要ノ場合ニ在リテハ公判々事ニ豫審ノ處分ヲ爲スコト

ヲ許シタル規定ナリトス

第二百三十九條 裁判所ニ於テハ被告人ノ自白シタルト

キト雖仍ホ証憑ヲ取調ヘサル可カラス

(解釋)本條ハ被告人自白スルモ仍ホ証憑ヲ取調フヘキコトヲ定メタ

被告人ノ自白ハ證據物件証人ノ供述等ニ適合スルトキハ一層ノ信憑力ヲ増スモノニシテ單ニ自白ノミニテハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノナレハ其證據力至ツテ薄弱ナリ故ニ裁判所ニ於テハ假令被告人其罪狀ヲ自白シタリト雖仍ホ其自白カ事實ニ適當スルヤ否ニ付十分証憑ヲ取調ヘサルヘカラサルナリ第二百十九條第二項ニ被告人自白アリタル場合ニ於テ檢事民事原告人ノ異議ナキトキハ他ノ証人ヲ取調フルニ及ハストアリ是レ以上ノ趣旨ト矛盾スルカ如シト雖未來證據ハ第九十條ニ定ムル通り判事ノ判斷ニ

任スルモノナレハ已ニ証憑アリ亦被告人ノ自白アリテ其事件ヲ裁判スルニ十分ノ材料アリト認メタル場合ニ於テハ檢事民事原告人カ異議ノ申立ナキキハ他ノ余分ノ証憑ヲ取調フルニ及ハサルノ意ニシテ決シテ之ヲ制限セシモノニアラス故ニ裁判官ニ於テ仍ホ取調ヲ必要ト認ムレハ進ンテ取調ヲ爲スヲ得ヘキナリ是レハ一ハ輕微ノ犯罪ナレハ無用ノ手續ヲ省クノ趣旨ナルヘシ然ルニ本條ノ場合ハ重且ツ難ナル事件ナレハ十分ノ証憑ヲ取調ヘ而シテ正確ナル裁判ヲ爲サ、ルヘカラサルヲ以テ假令被告人ハ其罪ヲ自白スルモ仍ホ証憑ノ取調ヘヲ爲スヘキコトヲ規定セリ

第二百四十條 裁判所ニ於テハ被告事件區裁判所ノ管轄

ニ屬スルモノト認メタルトキト雖第一審ノ判決ヲ爲ス

可シ

私訴ニ付其請求ノ價額通常民事ト區裁判所ノ管轄ニ屬

スルトキ亦同シ

(解釋)本條ハ地方裁判所ニ於テ受理シタル事件區裁判所ニ屬スルモノナルトキ處分方ヲ定メタルモノナリ  
他方裁判所カ受理シタル事件區裁判所ノ管轄權ニ屬スルトキハ之ヲ區裁判所ニ移スコトナシ其裁判所ニ於テ第一審ノ判決ヲ爲スヘキナリ是太ハ小ヲ容ヌルノ原則ニ基キシモノニシテ第二百二十二條ニ於テ解説スル處ナレハ爰ニ贅セス

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢事ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ但被告人勾留ヲ受ケザルトキハ勾留狀ヲ發ス可シ  
其被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ更ニ重罪事

件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ  
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ輕罪トシテ受理シタル事件重罪ナルトキノ處分方ヲ規定シタルモノナリ  
第一項ハ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ檢

事ヨリ重罪トシテ訴追アリタルトキ其事件未ダ豫審ヲ經ザルトキハ豫審ヲ爲サシムル爲メ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スモノトス  
此場合ニ於テ被告人未ダ勾留ヲ受ケザルトキハ勾留狀ヲ發スヘキナリ

第二項右事件カ已ニ豫審ヲ經タルモノニ係ルトキハ公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ而シテ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヘテ爲シ報告ヲ爲サシムヘキナリ此場合ニ於

テハ受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スヲ得可キコト、定メ  
ラレタリ是レ最初輕罪事件トシテ取調ヘタルモノナレハ未ダ取調  
ノ十分ナラサル所ヲ補ハシメンガ爲メナリ

### 第五編 上訴

(解釋)上訴トハ未ダ確定セサル裁判ニ對シ上級裁判所ニ不服ヲ訴フ  
ル訴訟法上ノ手續ヲ云フモノニシテ其種類ハ控訴上告及ヒ抗告ノ  
三個ニ分チタリ

凡ソ裁判官ハ法理ニ精シク訴訟ニ老ケ居ルモノナリト雖裁判官モ  
亦人類ナルヲ以テ其弱点トシテ五感ノ迷誤ニ因リ錯誤ニ陷ルルコ  
トナシトハ決シテ之ヲ斷言スルヲ得ス果シテ錯誤ニ陷イルコトヲ  
免レサルモノトスレハ法律ハ之ニ對スル救済ノ裁法ヲ設ケサルヘ  
カラス是レ一般訴訟手續ヲ規定シタル後ニ於テ上訴ノ方法ヲ規定  
シタル所以ナリトス

(此上訴ノ編ハ新設ニ係ルモノニシテ治罪法中各所ニ規定アリシ上  
訴ノコトヲ網羅セリ是重モナル改正ノ第二十七ナリ)

### 第一章 通則

(解釋)ハ前ニ出ツ

第二百四十二條 檢事其他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル  
上訴ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニモ亦上訴ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ上訴ヲ爲シ得ヘキ大体ノ規則ヲ定メタルモノナリ

檢事其他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル場合ニ非サレハ上訴ヲ爲ス  
コトヲ得ス其法律ニ於テ許シタル場合ハ第百十八條ニ証人呼出ニ  
應セサルトキノ罰金及ヒ賠償ノ言渡ニ對シ抗告ヲ許シ第百七十二  
條檢事ハ豫審判事ノ爲シタル重罪公判ニ付スル決定免訴若シハ管  
轄途ノ決定ニ對シ又被告人ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シ抗告ヲ

許シ第百八十七條檢事被告人ハ第百八十六條ニヨリ管轄違公訴受理ス可ラサル申立ヲ却下シタル本案前ノ判決ニ對シ控訴又ハ上告ヲ許シ第二百五十條控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ノ本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ許シ第百六十七條及ヒ第百六十八條上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ノ本案前ノ判決ニ對シ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スヲ許シタル等ナリトス

第二項ニ檢事ハ被告人ノ爲メニモ亦上訴ヲ爲ストコトヲ得ト規定アリ是レ或ハ前項ニ反對スル規定ニシテ假令ヒ法律ニ於テ許サ、ル場合ニ於テモ檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニ職務ヲ以テ爲シ得ルモノ、如ク見ユレトモ決シテ然ラス檢事ト雖濫リニ上訴ヲ爲シ得ヘキモノニ非スシテ必ス法律ノ規定ニ從ハサルヘカラサルハ勿論ナ

リ第二項ノ趣旨ハ檢事ハ刑事ノ原告官ニシテ刑ノ適用ヲ求ムル爲メ公訴ノ實行ヲ爲スモノナルカ故ニ或ハ其職務一方ニ偏シ被告人ノ利害ニハ關係セサルカ如キ感アリ故ニ法律ハ特ニ此規定ヲ設ケテ檢事ハ裁判所ニ屬スル司法及ヒ行政事件ニ付公益ノ代表者ニシテ裁判ノ公正ヲ維持スルモノナルコトヲ示シタルモノナリ

第二百四十三條 辨護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコト

ヲ得但被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

(解釋)本條ハ辨護人被告人ニ代リテ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコトヲ定メタリ

辨護人ハ被告人ニ代リテ上訴ヲ爲スヲ得ヘシト雖辨護人ハ被告人ノ辨護ノ足ラサル處ヲ補フヲ職トスルモノナレハ獨立シテ辨論ヲ爲スヲ得ス故ニ辨護人トシテ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スニ當リテモ必ス本人ノ明言シタル意思ヲ主張シ決シテ之ニ反對スルコトヲ得

サルモノトス爰ニ明言シタルトアルハ意思ハ本來内部ノモノナレハ言語若クハ文書行爲等ノ階梯ヲ假ラサレハ之ヲ發表スルヲ得ス由之本條ハ明言シタル意思トシテ其感覺界ニ顯ハレタルモノナルコトヲ明ニセシモノナリ

第二百四十四條 被告人ノ法律上代理人ハ獨立シテ上訴ヲ爲スユトヲ得

(解釋)本條ハ被告人ノ法律上ノ代理人上訴ヲ爲スヲ得ヘキコトヲ定メタルモノナリ  
先キニ解説セシ如ク法律上ノ代理人ハ其本人ト利害ヲ共ニスルモノナレハ被告人ト同様ニ獨立シテ上訴ヲ爲スヲ得ヘキモノトセリ  
(前條及ヒ本條ノ規定ハ治罪法ニ規定ナキモノナリ是重モナル改正ノ第二十八ナリ)

第二百四十五條 勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲スニハ

其申立書ヲ監獄署長ニ差出シ署長ハ之ヲ裁判所ニ送致ス可シ

(解釋)本條ハ勾留ヲ受ケタル被告人上訴申立書ヲ差出ス手續ヲ定メタルモノナリ  
監獄署長ハ即チ典獄ニシテ典獄ハ監獄署ヲ主管スルモノナレハ其監獄署ニ勾留受ケタル被告人ヨリ差出スヘキ書類ハ一度典獄ノ手ヲ經ルモノトセリ

第二百四十六條 檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ其判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得

(解釋)本條ハ上訴ノ願下ヲ爲ス場合ヲ定メタルモノナリ  
檢事ノ上訴ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ總テ其判決アルマテハ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得ヘキナリ是レ上訴ハ被告人ナリ  
辯護人ナリ又ハ被告人ノ法律上代理人ナリノ私權利ニシテ義務ニ



非サレハ何時ニテモ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘキカ故ナリ之ニ反シテ  
テ檢事ノ上訴ハ國家ノ代權者トシテ公益ノ爲メ不正ノ裁判ヲ正ス  
モノニシテ公ケノ權利タルト同時ニ公ケノ義務ニ屬スレハ一旦公  
益ト認メテ上訴シタルトキハ彼ノ私權利ニ屬スルモ、如ク自由ニ  
之ヲ取下シルコトヲ得ス故ニ檢事ハ其上訴ヲ爲スニ際シ最モ鄭重  
ニ取調ヲ爲サ、ルヘカヲサルモノナリ

**第二百四十七條** 訴訟關係人天災其他避ク可カラサル事  
變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ疏明  
シタルトキハ期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ  
回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間  
内ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲ス可シ

〔解釋〕本條ハ既ニ失フタル上訴權ヲ回復スルヲ得可キ場合ヲ定メタ  
ルモノナリ

上訴ヲ爲ス可キ期間内ニ上訴セサレハ貴重ナル上訴權ヲ失フハ理  
ノ當然ナリ然レトモ實際正當ノ事故ニ因リ之ヲ經過シタル場合ニ  
於テ之ヲ回復スルコトヲ得サルトキハ人々ノ不幸實ニ之ヨリ甚シ  
キモノナカルヘシ是本條ノ規定アル所以ナリ故ニ變災厄難等ヨリ  
シテ失權ニ至リシモ其旨ヲ疏明シタルトキハ其期間ノ經過ニ因リ  
失ヒタル權利ヲ回復スルヲ得ヘシ然リト雖モ其障礙ノ止ミタル日  
ヨリ通常ノ期間内ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲サ、レ  
ハ亦其權利ヲ失フヘシ

**第二百四十八條** 前條ノ申立アリタルトキハ裁判所書記  
速ニ其申立書ヲ相手方ニ送達ス可シ相手方ハ三日内ニ  
答辨書ヲ差出スコトヲ得  
上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ先  
ツ其申立ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

(解釋)本條ハ上訴ノ申立アリタルトキノ手續ヲ定メタルモノナリ  
前條ニヨリ上訴アリタルトキハ書記ヨリ其申立書ヲ對手人ニ送達  
シ對手人ハ三日内ニ答弁書ヲ差出スヲ得ヘシ

第二項右上訴ノ申立アリタルトキハ上訴ノ裁判所ハ第一着ニ檢事  
ノ意見ヲ聽キ其申立ヲ受理ス可キヤ否ヤヲ決定ス可キナリ通常ノ  
上訴ニ在リテハ直チニ本案ニ對シ判決ヲ爲スト雖本條ノ場合ハ之  
ト異ニシテ先ツ其失權ヲ回復シタルヤ否ヤヲ決定スルモノトス是  
レ上訴アリタルトキハ刑ノ執行ヲ停止スルカ故ニ濫訴ノ弊ヲ防カ  
ンカ爲メナリ

**第二百四十九條** 上訴完結ノ後其訴訟記録ハ上訴審ニ於  
テ爲シタル裁判ノ謄本ト共ニ第一審裁判所ニ之ヲ返還  
ス可シ

(解釋)本條ハ上訴完結ノ後訴訟記録ノ始末方ヲ定メタルモノナリ

本條ハ上訴完結シタルトキハ其訴訟記録ハ上訴裁判所ニ於テ爲  
タル裁判ノ謄本ト共ニ原裁判所ニ之ヲ返還ス可キコトヲ定メタル  
迄ニシテ別ニ説ク事ナシ

### 第二章 控訴

(解釋)控訴トハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ爲セル第一審ノ判決ニ對  
シテ爲ス處ノ不服ナリ此不服ニ對スル裁判ヲ第二審ノ判決ト云フ  
此控訴ニ主タルモノアリ附帶ノモノアリ主タル控訴トハ未タ控訴  
アラサル前ニ起スモノニシテ附帶ノ控訴トハ其主タル控訴ニ附隨  
シテ起スモノヲ云フ何レモ皆前判決ニ不服ヲ申立之ヲ攻撃スル方  
法ナリトス控訴ノ裁判所ハ通常區裁判ノ第一審ノ判決ニ對スルモ  
ノハ地方裁判所之ヲ管轄シ地方裁判所ノ第一審ノ判決ニ對スルモ  
ノハ控訴院之ヲ管轄ス

**第二百五十條** 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審

ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ控訴ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ

控訴ノ裁判ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ノ本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對スル復審ノ裁判ナレハ其裁判所ニ於テ控訴理由アリトスルトキハ第百六十一條第二項ノ規定ニ從ヒ原判決ヲ取消シ更ニ事實ヲ取調ヘ裁判ヲ仕直スモノニシテ被上告裁判ノ如ク法律ニ違背シタル裁判ヲ正スモノトハ大ニ異ルモノトス

第二百五十一條 扣訴ハ判決ノ一分ニ限り之ヲ爲スコトヲ得若シ之ヲ限ラサルトキハ全部ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノト看做ズ可シ

(解釋)本條ハ控訴ヲ分割シテ爲ステ得ヘキコトヲ定メタルモノナリ

控訴ハ原判決ノ全部ニ對シ之ヲ爲シ得ルハ勿論其不服ト思フ点ノミニ對シ之ヲ爲シ得ヘキモノナリ其全部ナルト一分ナルトハ結果ニ於テ控訴申立人ニ非常ノ利害ヲ及ホスモノナリ即チ原判決ニ付キ自己ニ利益ナル点ヲ存シ不利益ナル点ノミニ對シテ控訴ヲ起シタルトキハ控訴裁判所ハ不告不受理ノ原則ニ因リ控訴アリタル部分ニ限り才判ヲ仕直スモノナリ然ルニ全部ニ對スル控訴ナルトキハ判決全体ヲ取消シ覆審ヲ爲シ爲メニ或ハ却テ控訴申立人ノ不利益ヲ來スカ如キコトアレハナリ故ニ控訴ヲ爲サントスル者ハ宜シク爰ニ注意ヲ加ヘテ其申立ヲ爲サルヘカラス若シ然ラサレハ常ニ全部ノ控訴ト看做サルヘシ

第二百五十二條 控訴ノ期間ハ判決言渡アリタルヨリ五日トス

欠席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間内故障ヲ爲サスシ

テ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ控訴ノ期間ヲ定メタルモノナリ

控訴ノ期間ハ原判決ノ言渡ヲ受ケタル日ヨリ五日トセリ

第二項ハ第二百二十六條及ヒ第二百二十七條ニ依リ欠席判決ヲ受

ケタルモノハ第二百二十九條ノ期間ニ於テ故障ヲ爲スコトナク直

チニ控訴ヲ起スコトヲ得ル規定ニシテ更ニ説明ヲ要スルモノナシ

### 第二百五十三條 本案ノ判決ニ對スル控訴ノ期間内及ヒ

控訴アリタルトキハ判決ノ執行ヲ停止ス

(解釋)本條ハ判決未確定ノ場合ヲ定メタルモノナリ

本編ノ頭初ニ於テ解説スル通り裁判ハ誤リナキヲ必スヘカラスレ

ハ之ヲ救済スルノ手段トシテ上訴ノ制ヲ設ケタリ既ニ上訴ノ制ア

リ從ツテ亦上訴ノ準備ヲ爲ス猶豫ヲ與ヘサルヘカラス若シ然ラス

シテ判決ノ言渡アルヤ否ヤ其判決ヲ執行スルカ如キハ未ダ正不正

ノ確定セサルモノヲ以テ正確ナリトスルモノナレハ上訴ノ趣旨ニ

背クモノト云フヘシ是レ上訴ニ付キテハ相當ノ猶豫期間ヲ與ヘ期

間中ハ其判決ハ未確定ニシテ執行力ヲ生セサルモノト爲ス所以ナ

リ又既ニ控訴アリタルトキハ固ヨリ判決ノ執行ヲ停止スルコト論

ヲ待タス

(控訴期間ハ總テ五日ト改メラレタリ是重モナル改正ノ第二十九ナ

リ)

### 第二百五十四條 扣訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ

差出ス可シ

裁判所ハ扣訴ノ申立アリタルコトヲ速カニ相手方ニ通

知ス可シ

(解釋)本條ハ控訴申立書ヲ差出ス所ト及ヒ其申立書ヲ受ケタル裁判

所ハ相手方ニ通知ス可キコトヲ定メタルモノナリ

尙ホ其申立ニ付キ原裁判所ノ爲スヘキ職務ハ次條ニ在リ

第二百五十五條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル扣

訴ノ申立ハ決定ヲ以テ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ控訴ノ申立書ヲ受ケタル原裁判所カ其申立ハ第二百五十二條ノ期間ヲ過キタルモノナルトキノ處分方ヲ定メタルモノナ

リ  
控訴ノ裁判ハ上級裁判所ニ於テ之ヲ爲スト雖其申立書ハ一旦原裁判所ニ差出シ原裁判所ハ期間ヲ經過シタルモノニアラサルヤ否ヲ取調ヘ若シ期間ヲ經過シタル者ニ係ルトキハ決定ヲ以テ棄却ス可キナリ其趣旨ハ第二百四十八條第二項ニ同シ但シ此決定ニ對シテハ正當事由ニヨリ期間ヲ經過シタル等ノコトヲ説明シテ第二百九十三條以下ノ規則ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(期間ヲ經過シタル控訴及ヒ上告ハ區裁判所ニ於テ棄却スルコト、セラレタリ是重モナル改正ノ第三十ナリ)

第二百五十六條 訴訟記録ハ檢事ヨリ控訴裁判所ノ檢事

ニ送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出ス可シ

公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ檢事ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監ニ移ス可シ

(解釋)本條ハ控訴アリタルトキ訴訟記録ノ送致及ヒ被告人ヲ移ス手續ヲ定メタルモノナリ

訴訟記録ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送致シ檢事ハ之ヲ其裁判所ニ差出スハ是レ當然ノ手續ニシテ他ニ解説ノ要ナシ  
又公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人勾留ヲ受ケタルトキハ之ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移スハ其審問辨護ノ便宜ニ出ル

モノナリ

第二百五十七條 控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人ニ對シ  
呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ呼出狀ノ送達  
ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

(解釋)本條ハ控訴ノ裁判ヲ爲ス第一着ノ手續ヲ定メタルモノニシテ  
是迄解説シタル趣旨ト異ル處ナキヲ以テ復説セズ

第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一

審ニ關スル規定ヲ適用ス

第一審ニ於テ訊問シタル証人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定  
人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリト  
セサルトキハ之ヲ呼出サ、ルコトヲ得

(解釋)本條ハ上訴ノ裁判ニハ地方第一審ニ關係スル規定ヲ適用スル  
コトヲ定メタルモノナリ

地方裁判所第一審ニ關スル規定トハ第二百三十五條乃至第二百四  
十一條ノ公判ニ關スル規定ヲ云フ右規定中第二百三十九條ニ被告  
人其罪ヲ自白シタルトキト雖モ仍ホ証憑ヲ取調ヘサルヘカラスト  
アリ然レトモ控訴ノ裁判ニ在ツテハ既ニ第一審ヲ經タル本案事件  
ナレハ其不必要ノ証人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人等ヲ呼出シ其供  
述ヲ聽クカ如キ重複ノ手續ヲ爲スヲ要セス是等ハ必要ヲ認メタル  
トキニ限り呼出スヘキモトセリ

第二百五十九條 控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶扣

訴ヲ爲スコトヲ得

扣訴裁判所ノ檢事モ亦附帶扣訴ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタルモノナリ  
控訴ニ主タルモノアリ附隨シテ爲スモノアルコトハ本章ノ初メニ  
於テ述ヘタリ本條ハ即チ其附隨シタル控訴ニシテ之ヲ訴ス所以ハ

其對手ノ一方カ不服ヲ申立原判決ヲ更改セントセハ一方ニ於テモ亦損害ヲ受クルニ因リ正當ナリト思フ處ヲ維持セサルヘカラス彼レ控訴シテ利益ヲ得ハ我亦控訴シテ利益ヲ得ントスルハ人ノ常情ニシテ又其權利ニ屬ス故ニ法律ハ斯ク附帶ノ控訴ヲ許シタルモノナリ檢事ハ第二百四十二條ニ於テ解説スル通り裁判ノ公正ヲ維持スル職權アルモノニ付特リ主タル控訴ノミナラス附帶ノ控訴モ爲シ得ルハ勿論ナリ

**第二百六十條** 扣訴裁判所ニ於テハ扣訴ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヲ調査シ期間ノ經過後ニ係ルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ扣訴ヲ棄却ス可シ

(解釋)本條ハ控訴ヲ棄却ス可キ場合ヲ定メタルモノナリ  
控訴ノ期間ニ付テハ特リ原裁判所ニ於テ之ヲ調査スルノミナラス其控訴裁判所ニ於テモ之ヲ調査スルコト、規定セリ是期間ヲ經過

シタル控訴ナルトキハ裁判ヲ爲スモ到底無効タルヲ免レサレハナリ故ニ其控訴ニシテ期間ヲ經過シタルモノト認メタルトキハ之ヲ棄却スルナリ第二百五十五條ノ原裁判所ニ於テ控訴ヲ棄却シタルトキハ抗告ヲ許スト雖本條ノ棄却ニ付テハ之ヲ許サス其故ハ控訴裁判所ノ判決ハ恰モ抗告ノ判決ニ同シケレハナリ

**第二百六十一條** 扣訴裁判所ニ於テハ扣訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ扣訴ヲ棄却ス可シ扣訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ控訴ヲ棄却ス可キ場合ト受理ス可キ場合トヲ定メタルモノナリ  
控訴裁判所ニ於テ原裁判ハ正當ニシテ其控訴ハ理由ナキモノトスルトキハ原裁判ヲ認可シ控訴ヲ棄却ス可キナリ又原裁判ハ事實ト法律ニ違フタル不當ノ裁判ニシテ控訴理由アリトスルトキハ原判

決ヲ取消シ更ニ裁判ヲ仕直スモノトス

第二百六十二條

扣訴裁判所ニ於テハ原裁判所ノ管轄違

ナルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消ス可シ此場合ニ於テ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ新ニ勾留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ原裁判所ニ於テ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキハ其判決ヲ取消シ事件ヲ其裁判所ニ差戻ス可シ

(解釋)本條ハ原裁判所ノ管轄權ナキ事件ヲ裁判シタルコトヲ認メ又ハ原裁判所カ管轄權アルモノニ對シ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキノ處分方ヲ定メタルモノナリ  
原裁判所カ管轄權ナキモノニ對シ判決ヲ爲シタリト認メタルトキハ其判決ヲ取消サ、ルヘカラス此場合ニ於テ被告人尙ホ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前勾留狀ヲ存シ又ハ被告人未ダ勾留ヲ

受ケサルトキ勾留ヲ要スルモノト認メタルトキハ新タニ勾留狀ヲ發シテ其事件ヲ檢事ニ交付ス可キナリ  
又區裁判所カ自己ノ管轄權アル事件ニ對シ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキハ其管轄違ノ判決ヲ取消シ事件ヲ其裁判所ニ差戻シ相當ノ裁判ヲ爲サシムルモノトス

第二百六十三條

前條第一項ノ場合ニ於テ扣訴ヲ受ケタ

ル地方裁判所自ラ其事件ニ付キ第一審トシテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ判決ヲ爲ス可シ但事件重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ處分ス可シ

(解釋)本條ハ控訴ヲ受ケタル事件カ其地方裁判所ノ第一審ノ裁判權ニ屬スルトキノ處分ヲ定メタルモノナリ

前條第一項即チ地方裁判所ニ於テ控訴ヲ受ケタル事件カ自ラ第一



審トシテ裁判權ヲ有スルモノナルトキハ更ニ其事件ニ付キ判決ヲ爲ス可キモノトス若シ其事件カ重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ未ダ豫審ヲ經タル事件ナレハ之ヲ豫審ニ送付スル決定ヲ爲シ已ニ豫審ヲ經タルトキハ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

第二百六十四條 扣訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル扣訴又ハ附帶扣訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ  
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ撰任セサルトキハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ撰定ス可シ

(解釋)本條ハ控訴院ニ於テ控訴ヲ受ケタル事件ヲ重罪ナリトスルトキノ處分方ヲ定メタルモノナリ  
控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリト認メタルトキ又ハ其事件ヲ重罪トシテ主タル控訴ヲ受ケ若シハ附帶ノ控訴ヲ受理シタルトキハ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ヲ爲ス可キ旨ヲ決定シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シテ報告セシムルモノトス又此場合ニ於テ受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ本條ハ第二百一十一條ノ規定ト其趣ヲ同フスルモノニシテ一ハ第一審ノ裁判ニシテ一ハ第二審ノ裁判ナルト及ヒ其裁判所ノ等級ヲ異ニスルヨリシテ其手續ニ差アルノ

末項ニ辯護人ヲ撰任セサルトキハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ  
隨ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ撰任ス可シト定メタルハ是重罪  
事件ニハ必ス辯護人ヲ用非サルヘカラサルカ故ニシテ第一審ニ於  
テハ第二百三十七條ノ規定アレトモ第二審即チ控訴ノ裁判ニ規定  
ナキトキハ或ハ辯護人ヲ用非サルモ可ナルカ如キ誤解ヲ來タザン  
コトヲ恐レテ殊更ニ規定シタルモノナリ

**第二百六十五條** 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ扣  
訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益  
ト爲スコトヲ許サス  
被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ扣訴ヲ爲シタルトキ亦同  
シ

(解釋)本條ハ被告人辯護人又ハ法律上代理人等ヨリ控訴ヲ爲シタル

トキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スヲ許サ、ルコトヲ  
定メタルモノナリ  
本來正理ヨリ言ヘハ裁判ハ事實ト法律トニ因リ判決スヘキモノナ  
レハ原判決ヨリ重キ刑若クハ多キ賠償ヲ言渡スヲ以テ至當ナリト  
認メタルトキハ被告人ニ不利益ナル判決ヲ爲スモ差支ナキカ如シ  
ト雖本條ニ被告人弁護人又ハ法律上ノ代理人ノミ控訴ヲ爲シタル  
トキ被告人ニ不利益トナル判決ト爲スヲ許サ、ルハ抑々故アルナ  
リ蓋シ是等ノ者カ控訴ヲ爲スノ目的ハ悉ク被告人ニ利益ナル裁判  
ヲ欲スルニ在リ然ルニ其目的ニ背反スル不利益ノ判決ヲ爲スハ人  
情ニ戻ルモノニシテ且ツ公平ヲ維持セントスル檢事及ヒ相手方ハ  
其職務又ハ利益ノ点ヨリ見レハ爭テ被告人ノ申立ニ反對シタル申  
立ヲ爲スヘキモノナルニ之ニ反對セザリシハ是レ躬自ラ被告人等  
ノ求メテ正當ナリト思惟シタルニ因ルナルヘシ夫レ已ニ被告人等

ハ利益ノ裁判ヲ求メ原告人ハ之ニ反對セズ却テ被告人等ノ求ムル所ヲ承認セルニ裁判官之ニ立入りテ殊更ニ不利益ノ判決ヲ爲スノ要用ナカルヘシ又之ニ立入ルハ請求ナキ事件ニ付キ裁判ヲ爲スヘカラストノ原則ニモ反スルモノト云フヘシ又檢事被告人ノ利益ノ爲メ控訴ヲ爲シタルトキモ同様ナルコト以上ノ趣旨ニ異ナラサレハ略ス

**第二百六十六條** 扣訴申立人出頭セサルトキハ欠席判決ヲ以テ扣訴ヲ棄却シ相手方出頭セサルトキハ申立人ノ意見ヲ聽キ欠席判決ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ控訴ノ欠席判決ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ控訴申立人控訴ノ裁判ニ出頭セサルハ是自ラ不服ノ疏明ヲ爲スコトヲ拋棄シタルモノニテ即チ原判決ニ服シタルモノト看做シ欠席ノ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却シ又相手方出頭セサルトキハ其控訴ニ付

答辨スル權利ヲ自棄シタルモノト看做シ申立人ノミノ意見ヲ聽キテ欠席判決ヲ爲スヘキナリ

### 第三章 上告

(解釋)地方裁判所ノ第二審ニ於テ爲シタル判決及ヒ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル判決カ法律ニ違背シタルモノナルコトヲ控訴院又ハ大審院ニ向ツテ攻撃スル所ノ方法之ヲ上告ト云フ上告ノ控訴ト異ル所ヲ述フレハ控訴ハ事實ノ点ニ付テモ不服ヲ唱フルヲ得レトモ上告ハ前キニ爲シタル裁判カ法律ニ背キタルコトヲ理由トスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ原則トス故ニ上告裁判所ハ事實ヲ裁判スルニ非ラスシテ法律ヲ裁判スル所トス又上告ニモ主タルモノアリ附帶ノモノアリ

**第二百六十七條** 上告ハ地方裁判所又ハ扣訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シ

タル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スユトヲ得

(解釋)本條ハ上告ヲ爲シ得ル場合ヲ定メタルモノニシテ第二百五十條ト其趣旨同シ唯ニ控訴ト上告ト其訴訟ヲ異ニスルノミ

第二百六十八條 上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコト

ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スユトヲ得

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違

背シタルモノトス

(解釋)本條ハ上告ヲ爲シ得ヘキ原則ヲ示シタルモノナリ

上告ハ違法ノ裁判ヲ正スヲ以テ目的トス故ニ上告ノ裁判ハ前裁判

所ニ於テ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ之ヲ適用シタルモノヲ破毀シ

テ其誤リヲ正シ法律ノ解釋ヲ一定ナラシムルモノナレハ彼ノ控訴

ノ如ク事實ノ當否ニ關係スルモノニアラス是レ本條ニ上告ハ法律

ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スユト

ヲ得ト規定シタル所以ナリ

第二項法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトハ其意義甚々廣シ次條ノ場合ハ本項ニ付例示シタルモノニ過キス

第二百六十九條 裁判ハ左ノ傷合ニ於テ常ニ法律ニ違背

シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事

裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除

斥ノ理由ヲ主張シタルモ其効ナカリシトキ之ヲ以テ上

告ノ理由ト爲スユトヲ得ス

第三 判事忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メ

タルニ拘ハラス裁判ニ參與シタルトキ

第四 裁判所ニ於テ其管轄又ハ管轄違ノ不當ニ認メタ

ルトキ

第五 法律ニ背キ公判ヲ受理セサルトキ

第六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ

第七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

第八 判決ヲ公行セス又公開ヲ禁スル言渡ナクシテ辨論ヲ公ニセサルトキ

第九 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アルトキ

第十 擬律ノ錯誤アルトキ  
(解釋)本條ハ法律ニ違背シタル場合ヲ示シタルモノナリ  
第一規定ニ隨ヒ判決裁判所ヲ構成セストハ第七拾六條ニ公判ヲ

判事檢事裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトストアリ其役員ノ一  
ヲ欠クトキハ即チ判決裁判所ヲ構成セサルモノナリ又裁判所構成  
法ニ定メタル區裁判所ノ裁判ハ單獨判事之ヲ爲シ地方裁判所ノ裁  
判ハ三人ヲ以テ組立タル判事中一人ヲ裁判長トシ合議ノ制ニヨリ  
裁判ヲ爲シ又控訴院ハ五人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ一人ヲ  
裁判長トシ合議裁判ヲ爲スモノナリ然ルニ此規定ニ背キタルトキ  
ハ何レモ判決裁判所ヲ構成セサルモノトス

第二法律ニ依リ職務執行ヨリ除斥セラレタル判事裁判ニ參與スル  
ヲ得サルコトハ既ニ第二編第二章ニ於テ詳述スル處ナリ其規定ニ  
背キ判事カ裁判ニ參與シタル場合ハ上告ノ理由トナルナリ然レト  
モ忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其申立ヲ  
棄却セラレシトキハ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲スヲ得サルナリ  
第三本項ハ判事忌避セラレ而シテ其忌避ノ申請ハ理由アルモノト

ルトキ

第五 法律ニ背キ公判ヲ受理セサルトキ

第六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ

第七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ

第八 判決ヲ公行セス又公開ヲ禁スル言渡ヲクシテ辨論ヲ公ニセサルトキ

第九 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アルトキ

第十 擬律ノ錯誤アルトキ  
(解釋)本條ハ法律ニ違背シタル場合ヲ示シタルモノナリ  
第一規定ニ隨ヒ判決裁判所ヲ構成セストハ第七拾六條ニ公判ヲ

判事檢事裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノトストアリ其役員ノ一ヲ欠クトキハ即チ判決裁判所ヲ構成セサルモノナリ又裁判所構成法ニ定メタル區裁判所ノ裁判ハ單獨判事之ヲ爲シ地方裁判所ノ裁判ハ三人ヲ以テ組立タル判事中一人ヲ裁判長トシ合議ノ制ニヨリ裁判ヲ爲シ又控訴院ハ五人ノ判事ヲ以テ組立タル部ニ於テ一人ヲ裁判長トシ合議裁判ヲ爲スモノナリ然ルニ此規定ニ背キタルトキハ何レモ判決裁判所ヲ構成セサルモノトス  
第二法律ニ依リ職務執行ヨリ除斥セラレタル判事裁判ニ參與スルヲ得サルコトハ既ニ第二編第二章ニ於テ詳述スル處ナリ其規定ニ背キ判事カ裁判ニ參與シタル場合ハ上告ノ理由トナルナリ然レトモ忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其申立ヲ棄却セラレシトキハ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲スヲ得サルナリ  
第三本項ハ判事忌避セラレ而シテ其忌避ノ申請ハ理由アルモノト

認め乍ら其裁判ニ干カリタル場合ヲ云フ

第四本項ハ裁判所カ其管轄權ナキ事件ヲ管轄權アリト認め又管轄權アル事件ヲ管轄權ナシト認めタル場合ナリ

第五本項ハ第三條ノ特別ノ場合ト及ヒ第六條ニ關係シタルモノニシテ即チ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ナルニ之ヲ待タズシテ受理シタルトキ又ハ公訴消滅ノ原因スルニ之ヲ受理シタルトキ又ハ受理スヘキ公訴ナルニ之ヲ受理セサルトキナリトス

第六條本項ハ法律ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽ク可キコトヲ定メタル場合ニ於テ之ヲ聽カサルトキ云フ故ニ裁判所ノ職權ヲ以テ爲スコトヲ許シタル場合ニ在ツテハ檢事ノ意見ヲ聽カサルモ法律ニ背キタルモノニアラス

第七裁判所ニ於テハ法律上請求ヲ受ケタル事件ニハ必ス判決ヲ爲サ、ルヘカラサルノ義務アリ然ルニ請求ヲ受ケ乍ら其義務ヲ盡カ

ハルトキハ是レ法律ニ背キタルモノナリ又裁判所ハ職權ヲ以テ判決ヲ爲シ得ヘキ付帶犯罪等ノ場合ヲ除外必ス不告不受理ノ原則ヲ守ラサルヘカラス若シ之ニ背キ請求ナキ事件ニ對シ判決ヲ爲シタルトキモ亦法律ニ違ヒタルモノトス

第八公判ハ之ヲ公行スルヲ原則トス然レトモ裁判所構成法第一百五條ニ公開ヲ停ムル決議ヲ爲スコトアリ此場合ニ於テ其決議ハ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前ニ之ヲ言渡シ又裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムルコトヲ定メタリ故ニ判決ヲ公行セズ又ハ公開ヲ禁スル言渡ナクシテ弁論ヲ公ニセサルトキハ法律ニ背キタルモノナリ

第九裁判ニハ必ス事實ト法律ノ理由ヲ付セサルヘカラサルコトハ既ニ第六十八條及ヒ第二百三條ニ於テ詳述スル處ナリ故ニ其裁判ニシテ右二個ノ理由ヲ付セサルトキハ是レ法律ニ背キタルモノ

ナリ又其理由ノ阻礙シタルトキモ全様ナリ例ハ事實ニ於テ犯罪  
ヲ認メスシテ法律ニ於テ刑ヲ適用シタルカ如キ是ナリ

第十擬律ノ錯誤トハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ例ハ詐欺  
取財事件ニ竊盜ノ條項ヲ適用シタルカ如キ法律ニ背キタルコト論  
ヲ待タス

第二百七十條 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ

ハ被告人ノ利益ノ爲メ設ケタル規定ニ背キタルコト又  
ハ土地ノ管轄違アリト雖モ上告ノ理由ト爲スコトヲ得  
ス

(解釋)本條ハ上告ノ權利ニ制限ヲ付シタルモノナリ  
前二條ノ原因アレハ上告ヲ爲スノ理由トスルコトヲ得レトモ本條  
ハ假令ヒ法律ニ背クモ唯々外形ニ止マルノミニテハ上告ノ理由ト  
爲スコトヲ得ス必ス其精神ニ違フヲ要スルモノトセリ即チ被告人

ノ利益ノ爲メ設ケタル規則ニ背クモ被告人ニ利益ノ言渡アハレ實  
際被告人ハ利益ヲ得タルモノニ付上告ノ理由ト爲スヲ許サ、ルナ  
リ例ハ重罪事件ニハ必ス辯護人ヲ撰任セサルヘカラサルニ若シ  
之ヲ撰任セサリシトキト雖免訴又ハ無罪ノ言渡アリタルトキハ其  
規定ノ目的ヲ達シタルモノナリ然ルニ尙ホ之ヲ理由トシテ上告ヲ  
爲サントスルハ是利益ナキノ訴ト云フヘシ  
又土地ヲ以テ管轄權ヲ定ムルノ規定ハ搜索ヲ容易ニシ且ツ証人等  
ノ呼出ヲ便ニシ其裁判ノ速カナランコトヲ欲シ費用ヲ省カンカ爲  
メナリ然ルニ其土地ノ管轄ヲ違ヘ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ爲シタル  
ニ之ニ上告ヲ許シ正當ノ裁判所ニテ更ニ裁判ヲ爲ストキハ費用ヲ  
省カント欲シテ却テ夥多ノ費用ヲ要シ又裁判ノ敏速ヲ害シ法律ノ  
精神ニ反スルヲ以テ此土地ノ管轄違ハ被告人ニ利益ノ裁判ニ對ス  
ル上告ノ理由ト爲サ、ルナリ



第二百七十一條 上告申立ノ期間ハ裁判言渡アリタル日ヨリ三日トス

(解釋)本條上告申立ノ期間ヲ定メタルモノナレバ更ニ説明ヲ要セス

第二百七十二條 本案ノ裁判ニ對スル上告ノ期間内及ヒ上告ノ申立アリタルトキハ勾留及ヒ放免ノ言渡ヲ除ク外裁判ノ執行ヲ停止ス

(解釋)本條ハ上告期間内及ヒ上告アリタルトキハ判決ノ執行ヲ停止スルコトヲ定メタルモノナリ

本條ハ第二百五十三條ト趣旨ヲ同フスルヲ以テ爰ニ復説セス勾留言渡ノ執行ヲ停止スルトキハ被告人逃走ノ恐レアリ又放免ノ言渡ハ被告人ヲ裁判ニヨリ放免シタルモノナレハ之ヲ執行スルヲ當然ナリトス何トナレハ未ダ確定セサル判決ヲ以テ刑ノ執行ヲ爲スヲ得サルトモ放免ハ刑ノ執行ニアテサレハナリ

第二百七十三條 上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出シ且其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ趣意書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ上告申立書及ヒ趣意書ヲ受取リタル日ヨリ二十四時間内ニ之ヲ相手方ニ送達ス可シ

(解釋)本條ハ上告ヲ爲ス手續ヲ定メタルモノナリ

上告ノ期間ハ三日ナレトモ上告ヲ爲スト決シテヨリハ十分ニ趣意ヲ考ヘ之ヲ記載シテ差出スモノナレハ其申立ヲ爲シタル日ヨリ更ニ五日間ノ猶豫ヲ與ヘタルモノナリ又裁判所ハ上告申立書及ヒ趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時間内ニ相手方ニ送達スルハ上告アリタルコトヲ知ラシメ且答弁書ヲ差出サシメンガ爲メナリ

第二百七十四條 相手方ハ上告申立書及ヒ趣意書ヲ受取リタル日ヨリ五日内ニ答弁書ヲ原裁判所ニ差出スコト

ヲ得

裁判所ハ其答弁書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ  
上告申立人ニ送達ス可シ

〔解釋〕本條ハ相手方答弁書ヲ差出スヲ得ヘキコト及ヒ其答弁書ヲ上  
告申立人ニ送達スル規定ニシテ別段説クヘキコトナシ

第二百七十五條 檢事ヨリ差出ス可キ上告申立書及ヒ趣

意書又ハ答弁書ハ二通り作り一通ヲ上告裁判所ニ差出  
シ一通ヲ相手方ニ送達ス可シ

私訴ノ判決ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出ス可キ上告申立  
書及ヒ趣意書又ハ答弁書ニ付テモ亦同シ

〔解釋〕本條ハ檢事及ヒ私訴ノ上告ニ關スル別段ノ規定ナリトス

檢事ノ上告申立書趣意書答弁書ニ二通ヲ要スルハ一通ハ直チニ上  
告裁判所ニ差出シ一通ハ相手方ニ送達スヘキモノナルカ故ナリ被

告人等ヨリ差出スモノハ之ト異リ其裁判所ニ出スニヨリ檢事ハ之  
ヲ見テ答弁書ヲ差出スヲ以テ別ニ二通ヲ要セサルナリ

私訴ノ判決ニ對スル上告ニシテ訴訟關係人ノ差出スヘキ書類ニ付  
テモ一通ハ其私訴ノ相手方ニ送達セサルヘカラサルヲ以テ右ト同  
様ナリ

第二百七十六條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル上  
告ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告  
ヲ爲スコトヲ得

〔解釋〕本條ハ原裁判所ニ期間ヲ經過シタル上告ヲ棄却ス可キ權ヲ與  
ヘタルモノナリ

期間ヲ經過シタル上告ハ成立セサルコト明カナリ是分明ノ事柄ナ  
ルモ上告アレハ一々直手續ヲ爲サ、ルヘカラストスルキハ實ニ無  
用ノ手數ヲ煩スノミナラス被告人ハ刑ノ執行ヲ延期スル爲メ猥リ

ニ上告ヲ爲スノ弊ヲ生スルニ至ルヲ以テ本條ハ原裁判所ニ與フル  
ニ之ヲ棄却スルノ權ヲ以テセリ然レモ法律ハ尙ホ公平ヲ持スル爲  
メ此決定ニ對シテハ抗告ノ一途ヲ開通セリ

### 第二百七十七條 訴訟記録ハ檢事ヨリ上告裁判所ノ檢事

ニ送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出スヘシ

(解釋)本條ハ上告アリタルトキ訴訟記録ヲ上告裁判所ニ送致スル手  
續ヲ定メタルモノニシテ別段解説スルコトナシ

### 第二百七十八條 上告ノ相手方ハ其裁判アルマテ附帶上

告ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ノ檢事モ亦附帶上告ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ附帶上告ヲ爲シ得ヘキコトヲ定メタルナリ

本條ハ第二百五拾九條ト同一ノ趣旨ヲ以テ設ケラレシモノナリ故  
ニ詳細ハ全條ノ解ニ就テ看ルヘシ

### 第二百七十九條 上告申立人及ヒ相手方ハ辯護士ヲ差出

スコトヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢事ヨリ  
重罪ノ刑ニ該ル可キモノトシテ上告ヲ爲シタル場合ニ  
於テ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノ自ラ辯護士ヲ選任セサル  
トキハ上告裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ弁護  
士中ヨリ之ヲ撰任ス可シ

(解釋)本條ハ上告裁判ニ辯護士ヲ用ユルコトヲ定メタルモノナリ  
上告ノ裁判ハ先キニ述ヘシ如ク違法ノ裁判ヲ正スヲ目的トシ敢テ  
事實ニ立入ラサルモノナレハ關係人自ラ出頭シテ辯論スルコトナ  
ク書類ニ因リテ判決ヲ爲スヲ原則トス然レトモ書類ノミニテハ十  
分上告ノ趣旨ヲ盡スコト能ハサル場合アレハ第一項ニ於テ上告申  
立人又ハ其相手方ハ辯護士ヲ差出スコトヲ許シタリ

第二項ハ重罪事件ニ關スルモノハ辯護士ヲ用ユルコト、定メタルハ第二百三十六條及ヒ第二百六十四條ノ趣旨ト同シク重罪事件ニ限リ第一審タルト上訴審タルトテ問ハス総テ辯護士ヲ用ユルノ規定ナルヲ示シタルモノナリ爰ニ注意ヲ要スヘキハ上告ニハ辯護士トアリテ辯護人ト區別セリ是レ法律ノ裁判ナルヲ以テ最モ法律ニ老ケタルモノヲ撰ンテ上告趣旨ヲ達セシメ濫リニ事實ニ立入り無益ノ陳述ヲ爲シ時日ヲ費スノ弊ナカラシメンガ爲ナリ

第二百八十條 裁判長ハ受命判事ヲ定ムヘシ

受命判事へ訴訟記録ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ  
但シ自己ノ意見ヲ付ス可カラス

(解釋)本條ハ受命判事ヲ定メ報告書ヲ作ラシムルコトヲ定メタルモノナリ  
上告書類ハ數人ノ判事ニテ檢閲スルモノナルニ因リ上告裁判長ハ

一ノ專任者ヲ命シ一切ノ書ヲ取調ヘシメ報告書ヲ作ラシムルナリ  
受命判事自己ノ意見ヲ付スヘカラサルハ他ノ判事之ニ雷同シ或ハ之ニ抵抗スルノ弊ヲ防キ評議決定ノ際公平ノ意見ヲ妨ケンコトヲ恐ル、カ故ナリ

第二百八十一條 上告申立人及ヒ相手方ハ受命判事ノ報告書ヲ差出スマテハ其趣意ヲ擴張ス可キ辨明書ヲ上告

裁判所ニ差出スニトテ得  
受命判事報告書ヲ差出シタル後辨明書ヲ差出シタルト  
キハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

(解釋)本條ハ辨明書ヲ差出スヲ得ルコトヲ定メタルモノナリ  
上告ハ書類ノ争ヒナルカ故ニ上告申立人及相手方ハ自己ノ辯護權ニヨリ其趣意ヲ十分ニ擴張シテ辨明書ヲ差出スコトヲ得ヘキナリ  
其辨明書ニシテ受命判事ノ報告書ヲ差出ス前ニ差出シタルトキハ

共ニ取調ヲ受クヘシト雖正既ニ報告ヲ差出シタル後ナレハ之ヲ取調フルコトナク唯ク報告書ニ添付スルノミナリ

第二百八十二條

裁判所書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ

期日ヲ上告申立人及ヒ相手方ノ弁變士ニ報知ス可シ

(解釋)本條ハ上告裁判開廷通知ノイテ定メタルモノナリ

上告申立人ノ辨護士及ヒ相手方ノ辨護士ニハ報知スルニ止メ別ニ呼出狀ヲ發セサルハ是等ノ辨護士ハ己ニ事件ニ關係シ自ラ進ンテ出廷ス可キモノナレハ呼出狀ヲ發スルノ必要ナキカ故ナリ

第二百八十三條

開廷ノ日ニハ受命判事先ツ其報告書ヲ

朗讀ス可シ

檢事及ヒ辨護士ハ各其趣意ヲ辨明ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事最終ニ其意見ヲ陳述スヘシ

(解釋)本條ハ上告公廷ヲ開クノ規定ナリ

上告ノ公廷ニ於テハ事實ノ訊問ヲ爲スコトナク唯最初ニ受命判事ノ報告書ヲ朗讀シ檢事及ヒ辨護士各々趣意ヲ辨明スルノミ其順序ハ原告ヲ先ニシ被告ヲ後ニセサルヘカラス又檢事ハ裁判所構成法第六條ニモ定ムル如ク民事ニ於テモ必要ナリト認ムルトキハ通知ヲ求メ其意見ヲ陳述スルコト得ヘキモノナレハ私訴ニ付キ最終ニ事實參考迄ニ其趣意ヲ辨明スルモノナリ

第二百八十四條

上告申立人又ハ相手方ヨリ辨護士ヲ差

出サ、ルキハ其儘ニテ判決ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ上告申立人又ハ相手方カ辨護士ヲ差出サ、ルトキハ對審シテ其儘判決ヲ爲ス可キ規定ナリ

辨護士ヲ差出スハ各自ノ權利ニシテ義務ニアラス故ニ之ヲ差出サ、ルトキト自ラ辨護權ヲ拋棄シタルモノトシテ其儘判決ヲ爲スナリ然レトモ重罪事件ニ付テハ第二百七拾九條ノ規定アレハ辨護士

ハ必スアルヘキ筈ナリ

第二百八十五條 上告裁判所ニ於テハ上告ノ理由ナキト  
キ又ハ法律上ノ方式及ヒ期間内ニ於テ起サ、ルトキハ  
判決ヲ以テ棄却ス可シ

(解釋)本條ハ上告ヲ棄却スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

上告ノ理由トハ第二百六十八條第二百六十九條ノ理由ヲ云ヒ法律  
上ノ方式トハ第八十七條ノ場合ヲ除ク外第二審ノ判決ヲ經タ  
ルモノニアラサレハ之ヲ爲スヲ得サルモノナルニ其式ヲ履マズ直  
チニ上告ヲ爲シタルトキ又ハ上告趣意書ヲ原裁判所ニ差出サ、ル  
カ如キチ云ヒ期間ハ第二百七十一條第二百七十三條ノ期間ヲ云フ  
モノニシテ是ホノ場合ニ於テハ裁判所ハ判決ヲ以テ其上告ヲ棄却  
スルモノナリ

第二百八十六條 上告ヲ理由アリトスルトキハ其上告ニ

係ル判決ノ部分ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言  
渡ヲ爲ス可シ但シ後ノ二條ニ記載シタル場合ハ此限ニ  
在ラス

(解釋)本條ハ上告ヲ理由アリトシテ判決ヲ爲ス場合ヲ定メタルモノ  
ナリ

原判決カ法律ニ背キタル不當ノ裁判ニシテ上告ノ理由トナリ上告  
ヲ受理シタルキハ其上告ニ係ル判決ノ部分ノミヲ破毀シ正當ノ裁  
判ヲ爲サシムル爲メ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スヘキ  
ナリ上告裁判所ニ於テ自ラ裁判ヲ爲サ、ルモノハ法律ノ裁判所ト  
シテ事實ノ審理ヲ爲スヘキ所ニアラサルカ故ナリ然レモ後ノ二條  
ニ定ムルカ如ク原裁判ノ誤リヲ正ス事柄カ單ニ法律ノ適用又ハ其  
手續ヲ正スノミニ止マルトキハ他ノ裁判所ニ移スコトナリ上告裁  
判所自ラ判決ヲ爲スモノナリ

第二百八十七條 擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理

シタルニ因リ判決ヲ破毀シタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク上等裁判所ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヘシ

(解釋)本條ハ他ノ裁判所ニ移スコトナリ上告裁判所自ラ判決ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

本來裁判ハ事實ニ因リテ法律ヲ適用シ法律ノ適用ニ因テ事實ヲ知ルモノニシテ相關係シテ互ニ離レサルモノナレハ多クノ場合ハ原判決ヲ破毀シテ他ノ裁判所ニ移スモノナリ然リト雖モ本條ニ規定スルカ如キ擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタル事件ニ依リ原判決ヲ破毀シアルトキハ上告裁判所ニ於テ自ラ判決ヲ爲サ、ルヘカラス是レ擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルトノ事ハ全ク法律上ノ問題ニ屬シ事實ニ關係ナキヲ以テナリ

第二百八十八條 公判ノ手續規定ニ背キタルコトアリト

雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ボサ、ルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク止タ其手續ヲ破毀ス可シ

(解釋)本條モ上告裁判所自ラ判決ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタルモノナリ

假令ヒ公判ノ手續規定ニ背キタリト雖其後ノ手續ニ於テ利害ニ及ボサス單ニ其手續ノ不正ナル部分ヲ正シ事實迄進入スルヲ要セサルモノハ直ニ上告裁判所ニ於テ判決ヲ爲スナリ其趣旨前條ト異ナル所ナシ

第二百八十九條 判決ノ一分ニ對シ上告アリタル場合ニ

於テ他ノ部分ニ關係アルトキハ其部分ヲモ破毀ス可シ擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ被

告人ノ利益ノ爲メニ判決ヲ破毀シタルトキハ其利益ハ  
上告ヲ爲サ、ル共同被告人ニモ及ホス可シ

(解釋)本條ハ判決ノ一分ニ對シ上告アリタルモ其事柄カ他部分ニ關  
係スル場合ト及ヒ被告人ニ利益ノ判決ハ他ノ共同被告人ニモ及ボ  
スヘキコトヲ定メタルモノナリ

第一項ハ判決ノ一分ニ對シ上告アリタルモ其事柄カ他ト關聯シテ  
勢ヒ他ノ部分迄モ及ホサ、ルヲ得サル不分ノ事件ヲ云フ是レ不告  
不理ノ理ニ背クカ如クナレハ矢張附帶ノ事件ニシテ若シ他ノ部分  
ヲ破毀セサルハ其結果トシテ二個ノ理由ヲ齟齬セシムルニ至ル  
場合ナレハ己ムヲ得ス其部分迄進入シテ破毀スルモノトス

第二項ハ擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ被告  
人ノ利益ノ爲メ前判決ヲ破毀シタルトキ其利益ハ上告ヲ爲サ、ル  
他ノ共同被告人迄モ及ホスモノニシテ是又不告不理ノ變例ナリ正

理ヨリ云フトキハ被告人上告ヲ爲スハ自己ニ利益ヲ得ノカ爲ニシ  
テ其利益ノ請求ヲ爲サ、ルモノニ迄其裁判ヲ及ホスカ如キハ決シ  
テ正當ノモノト云フヲ得ス然レハ又一方ヨリ見ルトキハ全シ事柄  
ニ付一ハ無罪トノ利益ノ判決ヲ受ケ一ハ有罪トノ不利益ノ判決ヲ  
受クルハ眞ニ裁判ノ公正ヲ維持シ信用ヲ保ツモノト云フヲ得ス故  
ニ本項ハ被告人ニ不利益ノ判決ナルトキハ不告不理ノ原則ヲ適用  
シ利益ノ判決ハ其結果トシテ他ノ共同被告人ニ普及セシムルモノ  
ナリ但本項ハ上告裁判所ニ於テ直ニ判決ヲ爲ストキニ限リタルモ  
ノニシテ他ノ裁判所ニ移ス場合ニ於テハ勢ヒ事實ニ進入シテ審理  
ヲ爲スモノナレハ他ノ被告人モ同一ノ判決ヲ受クルハ論ヲ待マス  
(本條ハ治罪法ニ規定ナカリシモノナリ是重ナル改正ノ第三十一ナ  
リ)

## 第二百九十條 上告裁判所ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ



裁判所ニ移ス言渡シヲ爲ス可キトキハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ指定ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ其裁判所ノ民事部ニ移ス可シ

(解釋)本條ハ上告裁判所ニ於テ破毀シタル公訴私訴ヲ他ノ裁判所ニ移スコトヲ定メタルモノナリ

上告裁判所カ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スニハ必ズ原裁判所ト接近シ而シテ同等級ノ裁判所ナラサルヘカラス接近ノ裁判所ヲ要スルハ事實ヲ取調フルニハ證人ヲ呼出シ又ハ臨檢等ヲ爲スコトアルヲ以テ其便宜ヲ計リタルモノナリ又同等ノ裁判所ヲ要スルハ管轄權ノ必要アルヲ以テナリ

私訴ニ係ル事件ハ之ヲ原裁判所接近ニシテ且同等ナル裁判所ノ民事部ニ移サ、ルヘカラス其故ハ私訴ヲ公訴ニ附帶シテ起スハ固ト變例ナリ然ルニ上告裁判所ニ於テ破毀シタル單純ノ私訴ニ係ルト

キハ之ヲ公訴裁判所ニ移スノ事由ナシ故ニ本項ハ其本然ノ規則ニ復シ民事部ニ移スコト、セラレタリ

第二百九十一條 第二百六十五條ノ規定ハ上告ニモ亦之ヲ準用ス

(解釋)本條ハ被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴シアルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益トナスコトヲ許サ、ル規定ハ上告ニモ亦準用スヘキコトヲ定メタルモノニシテ其詳細ハ第二百六十五條ノ解ヲ見ルヘシ

(本條モ治罪法ニ規定ナキモノナリ是重ナル改正ノ第三十二ナリ)

第二百九十二條 第一審裁判所ト第二審裁判所トヲ問ハス法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スル者ナクシテ其判決確定シタルトキハ其事件ニ付上

告ヲ受クル權アル裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命ニ因リ  
又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ其裁判所ニ非常上告ヲ爲ス  
コトヲ得

非常上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ直チ  
ニ其事件ニ付判決ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ非常上告ヲ爲スヘキ場合ト及ヒ其判決ヲ爲ス裁判所ヲ  
規定シタルモノナリ

非常上告ハ上告ノ一種ナリト雖モ其名ノ指ス如ク特別ノ上訴ナリ  
之ヲ爲スヘキ場合ハ第一審タルト第二審タルトナ問ハス法律ニ於  
テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡  
シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スルモノナクシテ其判決確定シタ  
ルトキナリ故ニ上訴ノ途ヲ盡シテ其判決確定シタルモノハ非常上  
告ヲ許サ、ルモノトス何トナレハ之ヲ許ストキハ際限ナクシテ一

事不調理ノ原則ニ反スレハナリ又被告人ニ利益アル言渡ノトキニ  
於ルモ非常上告ヲ許サス是レ本條ニ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對  
シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合云々トア  
ル所以ナリ非常上告ヲ爲スヘキ人ハ其事件ニ付キ上告ヲ受クル權  
アル裁判所ノ檢事カ司法大臣ノ命ニ因リ若クハ職權ヲ以テ何時ニ  
テモ其裁判所ニ爲スヲ得ヘキナリ

非常上告ヲ受ケタル裁判所ニ於テ本條ノ理由アルモノト認メタル  
トキハ原判決ヲ破毀シ直チニ其事件ニ付キ判決ヲ爲サ、ルヘカラ  
ス他ニ移スコトナキハ既ニ日時ヲ經過シタル後ナルヲ以テ成ル可  
ク速カニ裁判センコトヲ欲シテナリ

(治罪法ニハ非常上告ニ續イテ哀訴ノ規定アリシカ本法ニ於テハ之  
ヲ廢セラレタリ是重モナル改正ノ第三十三ナリ)

### 第四章 抗告

刑事訴訟法詳解 第五編上訴

(解釋) 抗告モ亦前二章ニ規定セル控訴上告ト同シク裁判攻撃ノ一方  
法ナリ抗告ハ甚タ重要ナラサル裁判ニ對シテ爲スコトヲ得ヘキ上  
訴ノ一種ニシテ之ヲ控訴上告ニ比スレハ其手續極メテ簡略ナリト  
ス

(抗告ノ手續ハ治罪法ニ規定ナキモノナリ是重モナル改正ノ第三十  
四ナリ)

### 第二百九十三條 抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ

限り之ヲ爲スコトヲ得

(解釋) 本條ハ抗告ニハ制限アルコトヲ示シタルモノナリ

法律ニ於テ抗告ヲ許シタル場合ハ第一百十八條第七十三條第二  
百五十五條第二百七拾六條等ニ規定スル如ク此決定ニ對シテハ抗告

ヲ爲スコトヲ得ト特ニ法律ニ明記シタル場合ヲ云フ

### 第二百九十四條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判

ヲ爲ス可シ

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告  
ヲ爲スコトヲ得ス

(解釋) 本條ハ抗告裁判所ト及ヒ抗告ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨ  
リ更ニ抗告ヲ爲スコト得サル制限ヲ定メタルモノニシテ別段説ク事  
ナシ

### 第二百九十五條 抗告ノ期間ハ裁判ノ送達アリタルヨリ

三日トス

(解釋) 本條ハ抗告ヲ爲スヘキ期間ヲ定メタルニ過キス

第二百九十六條 抗告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判ヲ爲  
シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出ス可シ其裁判所又ハ  
豫審判事ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ點  
ヲ更正シ又理由ナシトスルトキハ意見ヲ付シテ三日内

ニ 抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送致シ且豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ訴訟記録ヲモ送致ス可シ

(解釋)本條ハ抗告ノ手續ヲ定メタルモノナリ

抗告ハ上訴ノ一ナリト雖モ證人呼出ニ應ゼサル罰金及ヒ賠償ノ言渡又ハ控訴上告ノ期間ヲ經過シタルニ付キ棄却ノ決定豫審判事重罪公判ニ付スルノ決定等ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キサレハ其争フ處煩難ナラス故ニ從ツテ其手續モ輕易ノモノナリ即チ本條ニ定メタル通り不服ノ点ヲ書面ニ認メ原裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ豫審判事ニ差出シ其裁判所又ハ豫審判事ハ抗告ヲ理由アリトスルトキハ不服ノ点ヲ自ラ更正シテ抗告人ヲ満足セシメ又理由ナキ不服ナリトスルトキハ本人ノ疑念ヲ解ク爲メ其申立書ニ意見ヲ付シテ三日内ニ抗告裁判所ニ送致シテ裁判ヲ請フモノトス抗告ノ裁判ハ次條ニモ定ムル如ク簡易ノ方法ニシテ一切ノ訴訟記録ヲ送ルコトナ

ク申立書ニ依リ裁判ヲ爲スモノナリ然レトモ豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付テハ其事件ヲ重罪トシテ公判ニ付スル決定免訴及ヒ管轄違ノ決定ニ對シテ抗告スルモノナレハ其事件ノ全体ニ關係アルヲ以テ訴訟記録ヲモ送致セサルヘカラサルモノナリ

第二百九十七條 抗告裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ書類ニ依リ抗告ノ裁判ヲ爲スヘシ

(解釋)本條ハ抗告ノ裁判ヲ爲ス方法ヲ定メタルモノナリ

抗告裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ訴訟關係人ヲ呼出スコトナク唯々其書類ニ依リテ裁判ヲ爲スモノナリ

第二百九十八條 豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判所ニ於テ必要ナリトスルトキハ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得